



Sun™ Management Center 4.0 追補マニュアル Sun SPARC® Enterprise サーバー

Sun SPARC Enterprise
M3000/M4000/M5000/M8000/M9000 サーバー版

Sun Microsystems, Inc.
www.sun.com

Part No. 820-6906-10
2008 年 11 月、Revision A

コメントの送付 : <http://www.sun.com/hwdocs/feedback>

Copyright 2008 Sun Microsystems, Inc., 4150 Network Circle, Santa Clara, California 95054, U.S.A. All rights reserved.

Sun Microsystems, Inc. および富士通株式会社は、それぞれ本書に記述されている製品および技術に関する知的所有権を所有または管理しています。これらの製品、技術、および本書は、著作権法、特許権などの知的所有権に関する法律および国際条約により保護されています。これらの製品、技術、および本書に対して Sun Microsystems, Inc. および富士通株式会社が有する知的所有権には、<http://www.sun.com/patents> に掲載されているひとつまたは複数の米国特許、および米国ならびにその他の国におけるひとつまたは複数の特許または出願中の特許が含まれています。

本書およびそれに付随する製品および技術は、その使用、複製、頒布および逆コンパイルを制限するライセンスのもとにおいて頒布されます。富士通株式会社と Sun Microsystems, Inc. およびそのライセンサの書面による事前の許可なく、これらの製品または技術および本書のいかなる部分も、いかなる方法によっても複製することが禁じられます。本書の提供は、明示的であるか黙示的であるかを問わず、本製品またはそれに付随する技術に関するいかなる権利またはライセンスを付与するものでもありません。本書は、富士通株式会社または Sun Microsystems, Inc. の一部、あるいはそのいずれかの関連会社のいかなる種類の義務を含むものでも示すものでもありません。

本書および本書に記述されている製品および技術には、ソフトウェアおよびフォント技術を含む第三者の知的財産が含まれている場合があります。これらの知的財産は、著作権法により保護されているか、提供者から富士通株式会社または Sun Microsystems, Inc. あるいはその両方へライセンスが付与されているか、その両方です。

GPL または LGPL が適用されたソースコードの複製は、GPL または LGPL の規約に従い、該当する場合に、お客様からのお申し込みに応じて入手可能です。富士通株式会社または Sun Microsystems, Inc. にお問い合わせください。

この配布には、第三者が開発した構成要素が含まれている可能性があります。

本製品の一部は、カリフォルニア大学からライセンスされている Berkeley BSD システムの作業に基づいていることがあります。UNIX は、X/Open Company, Ltd が独占的にライセンスしている米国ならびに他の国における登録商標です。

Sun、Sun Microsystems、Sun のロゴ、Java、Netra、Solaris、Sun Ray、Answerbook2、docs.sun.com、OpenBoot、Sun Fire、および Sun Management Center は、米国およびその他の国における Sun Microsystems, Inc. またはその子会社の商標もしくは登録商標です。

富士通および富士通のロゴは、富士通株式会社の登録商標です。

すべての SPARC 商標は、米国 SPARC International, Inc. のライセンスを受けて使用している同社の米国およびその他の国における登録商標です。SPARC 商標が付いた製品は、Sun Microsystems, Inc. が開発したアーキテクチャーに基づくものです。

SPARC64 は、Fujitsu Microelectronics, Inc. および富士通株式会社が米国 SPARC International, Inc. のライセンスを受けて使用している同社の商標です。

OPEN LOOK および Sun™ Graphical User Interface は、Sun Microsystems, Inc. が自社のユーザーおよびライセンス実施権者向けに開発しました。Sun Microsystems, Inc. は、コンピュータ産業用のビジュアルまたはグラフィカルユーザーインターフェースの概念の研究開発における米国 Xerox 社の先駆者としての成果を認めるものです。Sun Microsystems, Inc. は米国 Xerox 社から Xerox Graphical User Interface の非独占的ライセンスを取得しており、このライセンスは、OPEN LOOK グラフィカルユーザーインターフェースを実装するか、またはその他の方法で Sun Microsystems, Inc. との書面によるライセンス契約を遵守する、Sun Microsystems, Inc. のライセンス実施権者にも適用されます。

United States Government Rights - Commercial use. U.S. Government users are subject to the standard government user license agreements of Sun Microsystems, Inc. and Fujitsu Limited and the applicable provisions of the FAR and its supplements.

免責条項: 本書または本書に記述されている製品や技術に関して富士通株式会社、Sun Microsystems, Inc. またはそのいずれかの関連会社が行う保証は、製品または技術の提供に適用されるライセンス契約で明示的に既定されている保証に限り、このような契約で明示的に規定された保証を除き、富士通株式会社、Sun Microsystems, Inc. およびそのいずれかの関連会社は、製品、技術、または本書に関して、明示、黙示を問わず、いかなる種類の保証も行いません。これらの製品、技術、または本書は、現状のまま提供され、商品性、特定目的への適合性または第三者の権利の非侵害の黙示の保証を含みそれに限定されない、明示的であるか黙示的であるかを問わない、なんらの保証も、かかる免責が法的に無効とされた場合を除き、行われぬものとします。このような契約で明示的に規定されていないかぎり、富士通株式会社、Sun Microsystems, Inc. またはそのいずれかの関連会社は、いかなる法理論のもとでも第三者に対しても、その収益の損失、有用性またはデータに関する損失、あるいは業務の中断について、あるいは間接的損害、特別損害、付随的損害、または結果的損害について、そのような損害の可能性が示唆されていた場合であっても、適用される法律が許容する範囲内で、いかなる責任も負いません。

本書は「現状のまま」をベースとして提供され、商品性、特定目的への適合性または第三者の権利の非侵害についての黙示の保証等を含む、明示的であるか黙示的であるかを問わない、なんらの保証も、かかる免責が法的に無効とされた場合を除き、行われぬものとします。



Adobe PostScript

目次

はじめに xiii

1. 概要 1

この Sun Management Center アドオンソフトウェアについて 1

プラットフォームおよびハードウェアドメインを特定する 4

▼ プラットフォームの「詳細」ウィンドウを特定する 4

▼ ハードウェアドメインの「詳細」ウィンドウを特定する 4

参照: このドキュメントで使用される用語 5

モジュール 6

2. インストールと設定 7

アドオンソフトウェアのインストールについて 8

要件について 9

ネットワークポートの構成について 9

サービスプロセッサのフェイルオーバーについて 10

検出マネージャーの使用について 10

インストールおよび設定手順について 11

インストール処理の概要 12

Sun Management Center ソフトウェアのインストール 13

▼ Sun Management Center 4.0 のコアソフトウェアをインストールする 13

- Sun SPARC Enterprise Mx000 サーバー用の新しい Sun Management Center アドオンソフトウェアのインストールと設定 14
 - サーバーマシン上のサーバーレイヤー 14
 - ワークステーションまたはネットワーク上でのコンソールレイヤーおよび基本ヘルプ 14
 - Sun SPARC Enterprise Mx000 サーバー上でプリインストールされているプラットフォームエージェントレイヤー 14
- ホストとインストール済みレイヤー 15
- Sun Management Center インストールウィザードによるアドオンソフトウェアのインストール 16
 - ▼ Sun Management Center インストールウィザードによりアドオンソフトウェアをインストールする 16
- Sun Management Center セットアップウィザードによるアドオンソフトウェアの設定 17
 - ▼ サーバーマシンにアドオンソフトウェアを設定する 18
 - ▼ サービスプロセッサにアドオンソフトウェアを設定する 19
- セキュリティアクセスの設定 19
 - ▼ デフォルトの Sun Management Center アクセス特権を設定する 20
 - ▼ プラットフォームビューとドメインビューの管理グループを設定する 20
 - ▼ サービスプロセッサに特権を設定する 21
- CLI による Sun Management Center ソフトウェアの起動 22
 - ▼ Sun Management Center ソフトウェアをインストールする 22
- CLI による Sun Management Center ソフトウェアの停止と終了 24
 - ▼ サーバーとエージェントを停止する 24
 - ▼ コンソールを終了する 25
- セットアップパラメータの再構成 25
 - ▼ セットアップを再実行する 26
 - ▼ プラットフォーム管理モジュールを再ロードする 28

CLI によるソフトウェアのアンインストール	29
▼ すべての Sun Management Center ソフトウェアをアンインストールする	29
▼ アドオンソフトウェアのみをアンインストールする	31
インストールとセットアップのログファイル	33
SPARC Enterprise サーバーのアドオンソフトウェア固有パッケージ	33
ネットワークポートの構成	34
アクセス特権のための管理グループ	35
デフォルトの Sun Management Center 管理グループ	36
3. プラットフォーム管理	37
プラットフォーム管理モジュールについて	38
プラットフォーム管理モジュールの更新	38
プラットフォーム管理モジュールへのアクセス	39
▼ プラットフォーム管理モジュールにアクセスする	39
プラットフォーム管理モジュールでのアクティブ管理の実行	40
サーバーハードウェアの設定	41
▼ 簡単なドメインを構築する	41
サーバーハードウェアのアップグレード、ダウングレード、再タスク実行	43
▼ XSB をドメインから削除する	43
▼ XSB をドメインに追加する	44
▼ ドメインを再構成する	44
▼ XSB を移動する	47
▼ I/O ポートの電源を切る	48
サーバーハードウェアの操作と維持管理	49
▼ ドメインの電源を入れる	49
▼ ドメインをリセットする	49
▼ ドメインの電源を切る	50

FRU の交換	50
▼ システムボードを交換する	50
▼ システムボードを削除する	51
▼ システムボードを追加する	52
プラットフォーム管理のプロパティおよびタスク	53
システム	54
プラットフォームビューテーブル	55
CPU/メモリーユニットボード	55
CPU モジュール	57
メモリーボード	58
メモリー DIMM	59
I/O ユニットボード	60
PCI スロット	61
システムボード	62
拡張システムボード	63
論理システムボード	66
システムコンポーネント	66
環境監視	67
ドメイン	68
外部 I/O	69
外部 I/O 拡張ユニットシャーシ	70
I/O ポート	71
リンクカード	72
外部 I/O 拡張ユニットの電源装置とファン	73
外部 I/O 拡張ユニットセンサー	74
ドメインビュー	74
ドメイン情報	75
システムボード	76

	拡張システムボード	77
	論理システムボード	78
	「ハードウェア」タブについて	78
	物理表示	78
	論理表示	79
	「ハードウェア」タブの表示へのアクセス	79
	▼ 物理表示にアクセスする	79
	▼ 論理表示にアクセスする	80
4.	ドメイン管理	81
	ドメイン管理モジュールについて	81
	ドメイン管理モジュールへのアクセス	82
	▼ ドメイン管理モジュールにアクセスする	82
	ドメイン管理のプロパティ	83
	システム	83
	論理システムボード	84
	PCI カード	85
	プロセッサ	86
	メモリーコントローラ	87
	ディスク装置	88
	テープデバイス	89
	ネットワークインタフェース	89
5.	ドメイン動的再構成	91
	ドメイン DR 操作を実行する前に	91
	DR モジュールについて	91
	ドメイン DR 操作について	92

ドメイン DR 操作の実行	92
▼ PCI カードスロットを PCI バスに接続するには	92
▼ IO/デバイス DR コマンドのステータスを表示するには	93
「IO カード/デバイス」テーブルのメニューオプション	93
ドメイン動的再構成の属性	94
接続点: I/O カードとデバイス	94
6. アラーム規則	97
アラーム規則について	98
プラットフォーム管理モジュールのアラーム規則	98
エラーステータスの規則 (rErrorStatus)	99
LED 状態の規則 (rLEDState)	100
テスト状態の規則 (rTestState)	101
ドメインステータスの規則 (rDomainStatus)	101
有効ステータスの規則 (rValidStatus)	102
外部 I/O 拡張ユニット LED 状態の規則 (rIoBoxLEDState)	103
リンクカード LED 状態の規則 (rLinkCardLEDState)	104
取り外し可能 LED の規則 (rOKtoRemoveLED)	105
外部 I/O 拡張ユニットセンサーの規則 (rIoBoxSensor)	106
ドメイン管理モジュールのアラーム規則	107
CPU ステータスの規則 (oplCPUStatus)	107
状態チェックの規則 (oplStateCheck)	108
ディスクエラーカウンターの規則 (oplDskErrCnt)	109
テープエラーカウンターの規則 (oplTpeErrCnt)	109
A. マニュアルページ: setsunmc および showsunmc	111
setsunmc	111
showsunmc	114
索引	117

表目次

表 1-1	Sun SPARC Enterprise Mx000 サーバーモジュール	6
表 2-1	インストール、設定、アンインストール、およびアップデート手順	11
表 2-2	ホストとインストール済みレイヤー	15
表 2-3	Sun SPARC Enterprise Mx000 サーバー用の Sun Management Center パッケージ (続き)	33
表 2-4	Sun Management Center のデフォルトのポートアドレス	34
表 2-5	デフォルトの Sun Management Center 管理グループ	36
表 3-1	プラットフォーム管理: 「システム」 テーブル	54
表 3-2	プラットフォーム管理: 「CMU ボード」 テーブル	56
表 3-3	プラットフォーム管理: 「CMU ボード」 テーブルのポップアップメニュー	56
表 3-4	プラットフォーム管理: 「CPU モジュール」 テーブル	57
表 3-5	プラットフォーム管理: 「メモリーボード」 テーブル	58
表 3-6	プラットフォーム管理: 「メモリー DIMM」 テーブル	59
表 3-7	プラットフォーム管理: 「IOU ボード」 テーブル	60
表 3-8	プラットフォーム管理: 「IOU ボード」 テーブルのポップアップメニュー	61
表 3-9	プラットフォーム管理: 「PCI スロット」 テーブル	61
表 3-10	プラットフォーム管理: 「システムボード」 テーブル	62
表 3-11	プラットフォーム管理: 「システムボード」 テーブルのポップアップメニュー	63
表 3-12	プラットフォーム管理: 「XSB」 テーブル	63
表 3-13	プラットフォーム管理: 「XSB」 テーブルのポップアップメニュー	64
表 3-14	プラットフォーム管理: 「LSB」 テーブル	66

表 3-15	プラットフォーム管理:「システムコンポーネント」テーブル	67
表 3-16	プラットフォーム管理:「環境監視」テーブル	67
表 3-17	プラットフォーム管理:「ドメイン」テーブル	68
表 3-18	プラットフォーム管理:「ドメイン」テーブルのポップアップメニュー	69
表 3-19	プラットフォーム管理:「IO ボックスシャーシ」テーブル	70
表 3-20	プラットフォーム管理:「IO ボックスシャーシ」テーブルのポップアップメニュー	70
表 3-21	プラットフォーム管理:「IO ポート」テーブル	71
表 3-22	プラットフォーム管理:「IO ポート」テーブルのポップアップメニュー	71
表 3-23	プラットフォーム管理:「リンクカード」テーブル	72
表 3-24	プラットフォーム管理:「IO ボックス電源装置およびファン」テーブル	73
表 3-25	プラットフォーム管理:「IO ボックス電源装置およびファン」テーブルのポップアップメニュー	73
表 3-26	プラットフォーム管理:「IO ボックスセンサー」テーブル	74
表 3-27	ドメインビュー:「ドメイン」テーブル	75
表 3-28	ドメインビュー:「ドメイン」テーブルのポップアップメニュー	75
表 3-29	ドメインビュー:「システムボード」テーブル	76
表 3-30	ドメインビュー:「XSB」テーブル	77
表 3-31	ドメインビュー:「LSB」テーブル	78
表 4-1	ドメイン管理:「システム」テーブル	83
表 4-2	ドメイン管理:「論理システムボード」テーブル	84
表 4-3	ドメイン管理:「PCI カード」テーブル	85
表 4-4	ドメイン管理:「プロセッサ」テーブル	86
表 4-5	ドメイン管理:「メモリーコントローラ」テーブル	87
表 4-6	ドメイン管理:「ディスク装置」テーブル	88
表 4-7	ドメイン管理:「テープデバイス」テーブル	89
表 4-8	ドメイン管理:「ネットワークインタフェース」テーブル	89
表 5-1	「IO カード/デバイス」テーブルメニューの DR オプション	93
表 5-2	IO カード/デバイスの接続点の属性	94
表 6-1	エラーステータスの規則のテーブルおよび属性	99
表 6-2	エラーステータスの規則の属性値	99

表 6-3	LED 状態の規則のテーブルおよび属性	100
表 6-4	LED 状態の規則の属性値	100
表 6-5	テスト状態の規則のテーブルおよび属性	101
表 6-6	テスト状態の規則の属性値	101
表 6-7	ドメインステータスの規則のテーブルおよび属性	101
表 6-8	ドメインステータスの規則の属性値	102
表 6-9	有効ステータスの規則のテーブルおよび属性	102
表 6-10	有効ステータスの規則の属性値	103
表 6-11	外部 I/O 拡張ユニット LED 状態の規則のテーブルおよび属性	103
表 6-12	外部 I/O 拡張ユニット LED 状態の規則の属性値	103
表 6-13	リンクカード LED 状態の規則のテーブルおよび属性	104
表 6-14	リンクカード LED 状態の規則の属性値	104
表 6-15	取り外し可能 LED の規則のテーブルおよび属性	105
表 6-16	取り外し可能 LED の規則の属性値	105
表 6-17	外部 I/O 拡張ユニットセンサーの規則のテーブルおよび属性	106
表 6-18	外部 I/O 拡張ユニットセンサーの規則の属性値	106
表 6-19	CPU ステータスの規則のテーブルおよび属性	107
表 6-20	CPU ステータスの規則の属性値	107
表 6-21	状態チェックの規則のテーブルおよび属性	108
表 6-22	状態チェックの規則の属性値	108
表 6-23	ディスクエラーカウン트의規則のテーブルおよび属性	109
表 6-24	ディスクエラーカウン트의規則の属性値	109
表 6-25	テープエラーカウン트의規則のテーブルおよび属性	109
表 6-26	テープエラーカウン트의規則の属性値	109

はじめに

『Sun™ Management Center アドオンソフトウェア追補マニュアル Sun SPARC® Enterprise サーバー』では、SPARC Enterprise M3000/M4000/M5000/M8000/M9000 サーバーで Sun Management Center 4.0 ソフトウェアをインストール、構成、および使用する方法を説明します。このドキュメントは、経験を積んだシステム管理者を対象としています。

このドキュメントを読む前に

このドキュメントの情報を十分に活用するには、次のドキュメントで説明するトピックをよく理解しておく必要があります。

- Sun Management Center インストールと構成ガイド
- Sun Management Center ユーザーズガイド
- Sun SPARC Enterprise M3000/M4000/M5000/M8000/M9000 管理マニュアル
- Sun SPARC Enterprise M3000/M4000/M5000/M8000/M9000 ユーザーズガイド

このドキュメントの構成

第 1 章では、Sun SPARC Enterprise Mx000 サーバー用の Sun Management Center アドオンソフトウェアの概要を説明します。

第 2 章では、アドオンソフトウェアのインストール、設定、および構成の手順を説明します。

第 3 章では、一般的なアクティブ管理タスクやプラットフォーム管理モジュールテーブルの参照など、プラットフォームの管理について説明します。

第 4 章では、ドメイン管理モジュールテーブルの参照など、ドメインの管理について説明します。

第 5 章では、Sun Management Center コンソールおよびドメイン動的再構成モジュールを使用して、Sun SPARC Enterprise Mx000 サーバードメインから動的再構成 (Dynamic Reconfiguration、DR) 操作を実行する方法を説明します。

第 6 章では、SPARC Enterprise Mx000 サーバー固有の Sun Management Center アドオンソフトウェアアラーム規則の概要を説明します。

付録 A では、setsunmc および showsunmc のマニュアルページの詳細を説明します。これらは Sun SPARC Enterprise Mx000 サーバーのアドオンソフトウェアに固有のもので、参照のために含まれます。

UNIX コマンドの使用法

このドキュメントでは、システムのシャットダウン、システムの起動、デバイスの構成などの基本的な UNIX® コマンドおよび手順については説明しません。次の情報を参照してください。

- システムに付属のソフトウェアドキュメント
- Solaris™ オペレーティングシステムのドキュメント。場所:
<http://docs.sun.com>

シェルプロンプト

シェル	プロンプト
C シェル	<i>machine-name%</i>
C シェルのスーパーユーザー	<i>machine-name#</i>
Bourne シェルおよび Korn シェル	\$
Bourne シェルおよび Korn シェルのスーパーユーザー	#

書体と記号について

書体または記号*	意味	例
AaBbCc123	コマンド名、ファイル名、ディレクトリ名、画面上のコンピュータ出力、コード例。	.login ファイルを編集します。 ls -a を実行します。 % You have mail.
AaBbCc123	ユーザーが入力する文字を、画面上のコンピュータ出力と区別して表します。	% su Password:
<i>AaBbCc123</i>	コマンド行の可変部分。実際の名前や値と置き換えてください。	<i>rm filename</i> と入力します。
『』	参照する書名を示します。	『Solaris ユーザーマニュアル』
「」	参照する章、節、または、強調する語を示します。	第 6 章「データの管理」を参照。 この操作ができるのは「スーパーユーザー」だけです。
\	枠で囲まれたコード例で、テキストがページ行幅を超える場合に、継続を示します。	% grep \^#define \ XV_VERSION_STRING'

* 使用しているブラウザにより、これらの設定と異なって表示される場合があります。

本書で使用する例について

本書で説明する手順や操作の多くは、さまざまな方法で実行することができます。簡潔にするために、1つの操作で説明する方法は、通常は最も簡単な方法だけです。

たとえば、メインコンソールウィンドウで、Sun SPARC Enterprise Mx000 サーバーの「詳細」ビューを開く方法は、次の4つの方法から選択できます。

- ウィンドウの左側の階層ビューで Sun SPARC Enterprise Mx000 サーバーアイコンをクリックして、一番上のバーで「ツール」メニューをクリックし、「詳細」を選択します。
- ウィンドウの右側のトポロジビューで、前述と同じ操作を実行します。
- 階層ビューの Sun SPARC Enterprise Mx000 サーバーアイコンをダブルクリックします。
- トポロジビューの Sun SPARC Enterprise Mx000 サーバーアイコンをダブルクリックします。

同様に、アイコンを展開 (圧縮解除) する方法も複数あります。次の方法を使用できます。

- 「すべて開く」ボタンをクリックします (使用できないウィンドウもあります)。
- アイコンの横の「圧縮解除」シンボルをクリックします。
- 階層ビューまたはトポロジビューでアイコンをダブルクリックします。

関連マニュアル

アプリケーション	タイトル
最新ニュース	Sun Management Center アドオンソフトウェアのリリースノート Sun SPARC Enterprise M3000/M4000/M5000/M8000/M9000 サーバー Sun SPARC Enterprise Mx000 サーバープロダクトノート Sun Management Center リリースノート
インストール	Sun Management Center インストールと構成ガイド
Sun Management Center ソフトウェアの使用法	Sun Management Center ユーザーズガイド
Sun SPARC Enterprise M3000/M4000/M5000/ M8000/M9000 サーバー の使用法と管理法	Sun SPARC Enterprise M3000/M4000/M5000/M8000/M9000 サーバー 管理マニュアル Sun SPARC Enterprise M3000/M4000/M5000/M8000/M9000 サーバーユーザーズガイド Sun SPARC Enterprise M3000/M4000/M5000/M8000/M9000 サーバー XSCF リファレンスマニュアル

ドキュメント、サポート、およびトレーニング

Sun のサービス	URL
ドキュメント	http://www.sun.com/documentation/
サポート	http://www.sun.com/support/
トレーニング	http://www.sun.com/training/

他社の Web サイト

このドキュメントで紹介する他社の Web サイトが使用可能かどうかについては、Sun は責任を負いません。このようなサイトやリソース上、またはこれらを経由して利用できるコンテンツ、広告、製品、またはその他の資料についても、Sun は保証をしておらず、法的責任を負いません。また、このようなサイトやリソース上、またはこれらを経由して利用できるコンテンツ、商品、サービスの使用や、それらへの依存に関連して発生した実際の損害や損失、またはその申し立てについても、Sun は一切の責任を負いません。

コメントをお寄せください

ドキュメントの品質改善のため、お客様からのご意見およびご要望をお待ちしております。コメントは下記よりお送りください。

<http://www.sun.com/hwdocs/feedback>

ご意見をお寄せいただく際には、下記のタイトルと Part No. を記載してください。

Sun Management Center 4.0 追補マニュアル Sun SPARC Enterprise サーバー、
Part No. 820-6906-10

第1章

概要

この章では、Sun SPARC Enterprise M3000/M4000/M5000/M8000/M9000 サーバー上の Sun Management Center ソフトウェアプラットフォームとドメイン管理の概要を説明します。

この Sun Management Center アドオンソフトウェアについて

Sun Management Center ソフトウェアは、オープンかつ拡張可能なシステム監視およびシステム管理のアプリケーションです。Java™ ソフトウェアプロトコルと Simple Network Management Protocol (SNMP) を使用して、Sun 製品およびそのサブシステム、コンポーネント、周辺デバイスについての統合された包括的な企業規模の管理を提供します。

『Sun Management Center ユーザーズガイド』には、Sun Management Center のアーキテクチャーを明確にする定義、説明、および図が含まれています。コンソール、サーバー、エージェント、ドメイン、およびモジュールの相互作用について疑問がある場合は、このドキュメントを参照してください。

Sun SPARC Enterprise Mx000 サーバーのアドオンソフトウェアを使用することで、Sun Management Center のコアソフトウェアは Sun SPARC Enterprise Mx000 サーバーと連携できるように適合します。

Sun Management Center 4.0 アドオンソフトウェアは、次のシステムをサポートしています。

- Sun SPARC Enterprise M3000/M4000/M5000 サーバー (ミッドレンジサーバー)
- Sun SPARC Enterprise M8000/M9000 サーバー (ハイエンドサーバー)

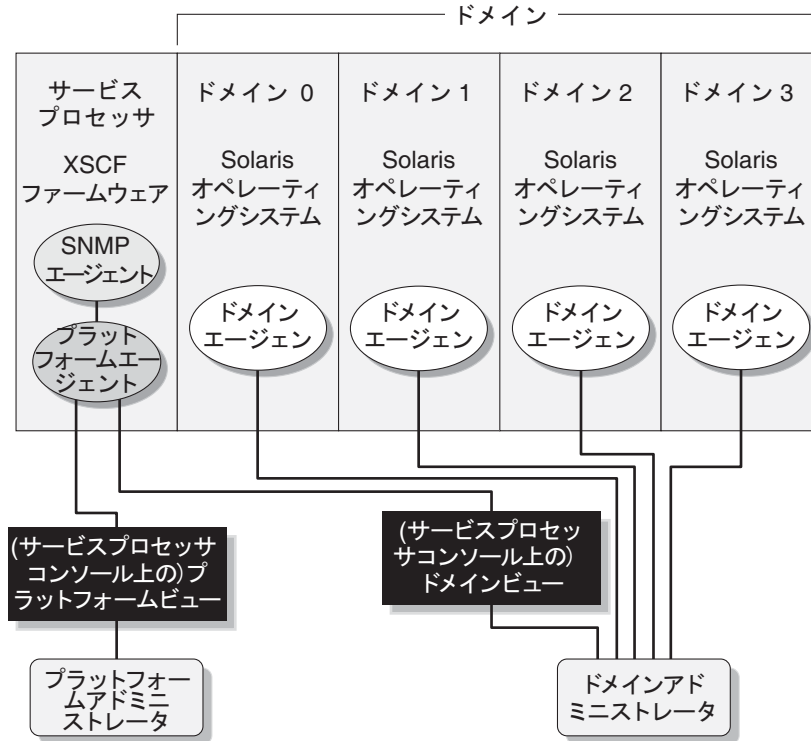
Sun SPARC Enterprise Mx000 サーバーのこのアドオンソフトウェアでは、次の機能が提供されます。

- ハードウェアの監視
- 電源管理システム
- ドメイン管理
- 動的再構成 (DR)
- FRU の交換 (システムボード)

Sun SPARC Enterprise Mx000 サーバーは、ハードウェアドメインに分割されます。それぞれのドメインで、オペレーティングシステムの個別のインスタンスが動作しています。ハードウェアリソースの機能と数に応じて、Sun SPARC Enterprise Mx000 サーバーは最大 24 ドメインをサポートできます (最小値は 1 ドメインです)。ドメインが使用されているため、Sun SPARC Enterprise Mx000 サーバーのアドオンソフトウェアは 2 つのモードで処理されます (図 1-1)。

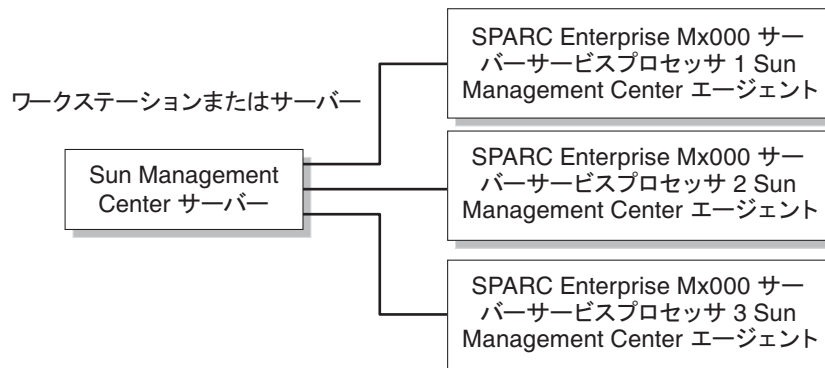
- **ドメインアドミニストレータ**は、次の 2 つの方法のいずれかで Solaris オペレーティングシステムのドメインビューにアクセスできます。
 - Sun SPARC Enterprise Mx000 サーバーサービスプロセッサ上で動作するプラットフォームエージェント経由
 - Sun SPARC Enterprise Mx000 サーバードメイン上で動作するエージェント経由
- **プラットフォームアドミニストレータ**は、Sun Management Center プラットフォームエージェント経由でサービスプロセッサコンソールからプラットフォームビューにアクセスできます。

図 1-1 プラットフォームとドメインの管理ビュー



アドオンソフトウェアをホストマシン (ワークステーションまたはサーバー) にインストールしたあとで、そのホストマシン上で Sun Management Center ソフトウェアを実行して、Sun SPARC Enterprise Mx000 サーバーのサービスプロセッサにアクセスできます (図 1-2 を参照)。

図 1-2 SPARC Enterprise サーバーサービスプロセッサへのアクセスを提供するプラットフォームエージェント



プラットフォームおよびハードウェア ドメインを特定する

プラットフォームとハードウェアドメインの「詳細」ウィンドウは、最初に表示された場合は非常によく似ています。デフォルトでは、両方のウィンドウで「モジュールブラウザ」タブが開きます。

▼プラットフォームの「詳細」ウィンドウを特定する

- プラットフォームの「詳細」ウィンドウを特定するには、プラットフォームアイコンと 5 つのタブを探します。
 - 情報
 - モジュールブラウザ
 - アラーム
 - モジュールマネージャー
 - ハードウェア

▼ハードウェアドメインの「詳細」ウィンドウを 特定する

- ハードウェアドメインの「詳細」ウィンドウを特定するには、ハードウェアドメインアイコンと 6 つのタブを探します。
追加のタブは、「アプリケーション」タブです。
 - 情報
 - Module Browser (モジュールブラウザ)
 - アラーム
 - モジュールマネージャー
 - アプリケーション
 - ハードウェア

参照: このドキュメントで使用される用語

注 – このドキュメントでは、管理ドメインは Sun Management Center の管理ドメインを指します。その他の Sun 製品またはドキュメントに関する「ドメイン」という用語の使用法と混同しないでください。

管理ドメイン – 管理ドメインは 1 つ以上のホストシステムから構成されます。

動的再構成 (DR) – Sun SPARC Enterprise Mx000 サーバーのアドオンソフトウェアは、グラフィカルユーザーインターフェースを提供して動的再構成処理を容易にします。Solaris オペレーティングシステムでは、動的再構成機能により、オペレーティングシステムの実行中にコンパクトな PCI I/O カードをシステムから安全に取り外す機能が提供されます。サービスプロセッサでは、動的再構成により、システムリソースを再構成し、システムボードを安全に交換する機能が提供されます。

プラットフォーム – サーバーシステム一式に対する代替用語。Sun SPARC Enterprise M5000 サーバーは、本書で説明するプラットフォームの一例です。

ドメインまたはハードウェアドメイン – Sun SPARC Enterprise Mx000 サーバープラットフォーム内では、ドメインはパーティション内のシステムリソースの論理的に独立した集合から構成することができます。各ドメインではオペレーティングシステムの個別のコピーが実行されます。この種類のドメインは、管理ドメインとは対照的に、システムボードおよびその他のデバイスから構成されます。これは、複数のハードウェアドメインおよびプラットフォーム全体から構成される場合もあります。明確にするために、本書ではこの種類のドメインをハードウェアドメインと呼びます。

モジュール

表 1-1 に一覧表示されたモジュールでは、Sun SPARC Enterprise Mx000 サーバーのハードウェア構成情報、プロセスの監視、および管理操作が提供されます。

表 1-1 Sun SPARC Enterprise Mx000 サーバーモジュール

エージェントモジュール	説明
Plat Admin Module SPARC Enterprise Mx000	プラットフォーム管理モジュール。Sun SPARC Enterprise Mx000 サーバーの監視機能およびアクティブ管理機能を提供します。サービスプロセッサに常駐します。
Domain Config Reader SPARC Enterprise Mx000	ドメイン管理モジュール。Sun SPARC Enterprise Mx000 サーバーのドメインの監視機能を提供します。
Domain DR SPARC Enterprise Mx000	ドメイン動的再構成 (DR) モジュール。アドミニストレータが同時に 1 つのドメイン上でボードの動的再構成を実行できるようにします。

第2章

インストールと設定

この章では、Sun Management Center ウィザードを使用している Sun SPARC Enterprise Mx000 サーバーを対象とした、Sun Management Center ソフトウェアのインストール方法、設定方法、アンインストール方法、再インストール方法、および再構成方法について説明します。次の節で構成されています。

全般的な情報

- [8 ページの「アドオンソフトウェアのインストールについて」](#)
- [9 ページの「要件について」](#)
- [9 ページの「ネットワークポートの構成について」](#)
- [10 ページの「サービスプロセッサのフェイルオーバーについて」](#)
- [10 ページの「検出マネージャーの使用について」](#)
- [11 ページの「インストールおよび設定手順について」](#)

手順

- [12 ページの「インストール処理の概要」](#)
- [13 ページの「Sun Management Center ソフトウェアのインストール」](#)
- [14 ページの「Sun SPARC Enterprise Mx000 サーバー用の新しい Sun Management Center アドオンソフトウェアのインストールと設定」](#)
- [15 ページの「ホストとインストール済みレイヤー」](#)
- [16 ページの「Sun Management Center インストールウィザードによるアドオンソフトウェアのインストール」](#)
- [17 ページの「Sun Management Center セットアップウィザードによるアドオンソフトウェアの設定」](#)
- [19 ページの「セキュリティーアクセスの設定」](#)
- [22 ページの「CLI による Sun Management Center ソフトウェアの起動」](#)
- [24 ページの「CLI による Sun Management Center ソフトウェアの停止と終了」](#)
- [25 ページの「セットアップパラメータの再構成」](#)
- [29 ページの「CLI によるソフトウェアのアンインストール」](#)

参照

- 33 ページの「インストールとセットアップのログファイル」
- 33 ページの「SPARC Enterprise サーバーのアドオンソフトウェア固有パッケージ」
- 34 ページの「ネットワークポートの構成」
- 35 ページの「アクセス特権のための管理グループ」

es-inst コマンドと es-setup コマンドを使って、コマンド行インタフェース (Command-Line Interface、CLI) からソフトウェアのインストールと設定を行うこともできます。CLI によるインストールについては、『Sun Management Center インストールと構成ガイド』を参照してください。

アドオンソフトウェアのインストールについて

Sun Management Center ソフトウェアは、次の 3 種類の方法で提供されます。

- Sun Management Center インフラストラクチャーと基本サポートを提供する主要パッケージ
- 特定のハードウェアプラットフォームをサポートするアドオンコンポーネント
- 追加機能用のライセンス済みアドオン製品

Sun SPARC Enterprise Mx000 サーバーのサポートには、Sun SPARC Enterprise Mx000 サーバー用の Sun Management Center 主要パッケージとアドオンソフトウェアが必要です。『Sun Management Center インストールと構成ガイド』では、Sun Management Center ソフトウェアのインストール、設定、起動、および終了に関する基本情報について説明します。この章では、Sun SPARC Enterprise Mx000 サーバーだけに関連するプロセスを説明します。

特定のハードウェアプラットフォーム用の Sun Management Center ソフトウェアとアドオンソフトウェアは通常、次の 3 箇所にインストールする必要があります。

- Sun Management Center サーバーホスト
- Sun Management Center コンソールホスト
- 監視対象のハードウェアプラットフォーム (この場合は、Sun SPARC Enterprise Mx000 サーバー)

注 – Sun SPARC Enterprise Mx000 サーバーのサービスプロセッサは、Sun Management Center ソフトウェアとプラットフォーム固有のアドオンソフトウェアがプリインストールされた状態で納品されます。サーバー、コンソール、および SPARC Enterprise Mx000 ドメインホストには、ソフトウェアをインストールするだけですみます。

注意 – Sun Management Center ソフトウェアで提供されているインストールスクリプトおよびセットアップスクリプトを使用してください。パッケージを手動で追加したり、構成ファイルを手動で変更したりしないでください。

Sun Management Center スクリプトやウィザードパネルでは、本書に示されている例とまったく同じシーケンスで、まったく同じメッセージが表示されるとは限りません。しかし本書の例には、実際とほぼ同じシーケンスで表示される基本メッセージが示されています。実際のインストールスクリプトおよびセットアップスクリプトは、インストールすることを選択したアドオンコンポーネントとその他の選択によって決まります。

要件について

一般的な Sun Management Center の必要条件については、『Sun Management Center インストールと構成ガイド』を参照してください。

このアドオンソフトウェアの現在のリリースに関する最小必要要件については、現在のリリースの『Sun Management Center アドオンソフトウェアのリリースノート』を参照してください。

ネットワークポートの構成について

一部のケースで、デフォルトのポート構成が、使用しているシステムで実行中のソフトウェアと競合を起すことがあります。一部の Sun SPARC Enterprise Mx000 サーバーのドメインには、旧バージョンのエージェントが存在しているため、ポート 161 で競合が発生する場合があります。Sun Management Center ソフトウェアのセットアッププロセス実行中に、この競合を回避するため、別のネットワークポートを指定してください。ポート競合の解決の詳細については、『Sun Management Center インストールと構成ガイド』を参照してください。

トポロジオブジェクトの作成とアクセスを行うには、Sun Management Center エージェントのレイヤーソフトウェアはデフォルトのポート 161 を使用する必要があります。代替のポートを使用するようにエージェントを構成した場合、トポロジオブジェクトの作成または検出時に、そのポートを指定する必要があります。Sun Management Center ネットワークの設定と管理を簡略化し、Sun Management Center エージェントを効率よく検出するため、代替のポート番号を選択し、デフォルトのポート構成を使用できない全エージェントのインストールでその番号を使用してください。

デフォルトのネットワークポート構成の詳細については、31 ページの「参照: `setsunmc` と `showsunmc` のマニュアルページ」と 37 ページの「参照: ネットワークポートの構成」を参照してください。

サービスプロセッサのフェイルオーバーについて

ハイエンドサーバー上でサービスプロセッサのフェイルオーバーをサポートするアドオンソフトウェアの場合、アクティブなサービスプロセッサ (`lan#0` など) の継承 IP アドレスを設定する必要があります。詳細については、`setnetwork(8)` XSCF コマンドと `setroute(8)` XSCF コマンドのマニュアルページを参照してください。

検出マネージャーの使用について

検出マネージャーを使って、管理ドメインを自動生成することができます。詳細については、『Sun Management Center ユーザーズガイド』の「検出マネージャーによるトポロジデータベースへのオブジェクト追加」の章を参照してください。

Sun SPARC Enterprise Mx000 サーバードメインに対する「オブジェクトの検出」要求の定義と開始を実行する場合、SNMP に対するデフォルトのコミュニティ文字列を「設定の変更」タブの「SNMP」セクションで `oplsunmc` に変更する必要があります。手順については、『Sun Management Center ユーザーズガイド』の「検出オブジェクト要求を設定する」を参照してください。

ドメイン上でソフトウェアを設定するには、ドメイン上でソフトウェアを設定する際に SNMPv1 コミュニティ文字列も `oplsunmc` に設定する必要があります。17 ページの「Sun Management Center セットアップウィザードによるアドオンソフトウェアの設定」を参照してください。

インストールおよび設定手順について

Sun Management Center ソフトウェアでは、複数の方法で、ソフトウェアのインストール、設定、アンインストール、およびアップデートを行うことができます。また、ユーザーのアクセス特権を設定する必要もあります。表 2-1 に、本書の情報と『Sun Management Center インストールと構成ガイド』内の情報を相互参照するさまざまな方法を示します。

表 2-1 インストール、設定、アンインストール、およびアップデート手順

実行する作業	参照先
Sun Management Center インストールウィザードによるソフトウェアのインストール	コアソフトウェア: Sun Management Center インストールと構成ガイド このアドオンソフトウェア: 16 ページの「 Sun Management Center インストールウィザードによるアドオンソフトウェアのインストール 」
Sun Management Center セットアップウィザードによるソフトウェアの設定	コアソフトウェア: Sun Management Center インストールと構成ガイド このアドオンソフトウェア: 17 ページの「 Sun Management Center セットアップウィザードによるアドオンソフトウェアの設定 」
セキュリティアクセスの設定	コアソフトウェア: Sun Management Center ユーザーズガイド このアドオンソフトウェア: 19 ページの「 セキュリティアクセスの設定 」
ウィザードによるソフトウェアの起動	『Sun Management Center インストールと構成ガイド』の第 8 章の「 es-guistart によるコンポーネントの起動 」
ウィザードによるソフトウェアの停止	『Sun Management Center インストールと構成ガイド』の第 8 章の「 es-guistop によるコンポーネントの停止 」
ウィザードによるソフトウェアのアンインストール	『Sun Management Center インストールと構成ガイド』の「 付録 A 」
CLI によるコアソフトウェアとアドオンソフトウェアのインストール	『Sun Management Center インストールと構成ガイド』の「 付録 B 」
CLI によるアドオンソフトウェアの設定	『Sun Management Center インストールと構成ガイド』の「 付録 B 」

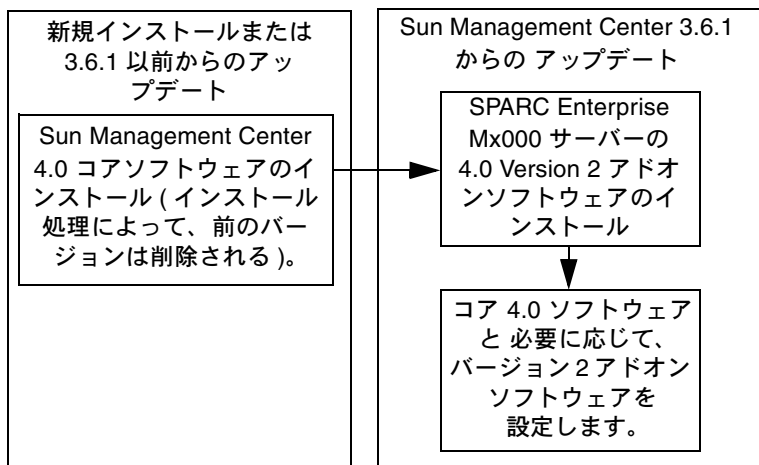
表 2-1 インストール、設定、アンインストール、およびアップデート手順

実行する作業	参照先
CLI によるソフトウェアのアンインストール	『Sun Management Center インストールと構成ガイド』の「付録 B」 このアドオンソフトウェア: 29 ページの「CLI によるソフトウェアのアンインストール」
CLI によるソフトウェアの起動	『Sun Management Center インストールと構成ガイド』の第 8 章の「es-start によるコンポーネントの起動」 このアドオンソフトウェア: 22 ページの「CLI による Sun Management Center ソフトウェアの起動」
CLI によるソフトウェアの停止	『Sun Management Center インストールと構成ガイド』の第 8 章の「es-stop によるコンポーネントの停止」 このアドオンソフトウェア: 24 ページの「CLI による Sun Management Center ソフトウェアの停止と終了」

インストール処理の概要

図 2-1 に、Sun Management サーバー、コンソール、およびサーバードメインソフトウェアのインストール処理の概要を示します。ソフトウェアは、サービスプロセッサ上にプリインストールされています。

図 2-1 インストール処理の流れ



Sun Management Center ソフトウェア のインストール

まだコア Sun Management Center 3.6.1 ソフトウェアをインストールしていない場合は、この Version 2 アドオンソフトウェアをインストールする前に、インストールしておいてください。

注 - コア Sun Management Center 3.6.1 ソフトウェアのインストール処理には、Sun Management Center ソフトウェアの旧リリースのアンインストール処理が含まれています。旧リリースからのアップグレードの詳細については、『Sun Management Center インストールと構成ガイド』を参照してください。

▼ Sun Management Center 4.0 のコアソフトウェア をインストールする

- コアソフトウェアのインストール手順については、『Sun Management Center インストールと構成ガイド』を参照してください。

Sun Management Center ソフトウェアの旧リリースをアップデートする場合は、これまでにインストールしたアドオンソフトウェアを含め、現在インストールされているリリースからのソフトウェアのアップデートに関する情報を読んでください。

Sun SPARC Enterprise Mx000 サーバー用の新しい Sun Management Center アドオンソフトウェアのインストールと設定

この節では、Sun SPARC Enterprise Mx000 サーバー用のアドオンソフトウェアのインストールと設定手順について要約します。

サーバーマシン上のサーバーレイヤー

指定した Sun Management Center サーバーマシン上の Sun SPARC Enterprise Mx000 サーバーに対して、Sun Management Center コアサーバーレイヤーとアドオンコンポーネントのインストールと設定を行います。コアサーバーレイヤーをインストールする場合、Sun Management Centerのコアエージェントレイヤーは、Sun Management Center サーバーに自動的にインストールされます。この操作もこれに当てはまるため、ユーザーはサーバーマシン自体を監視できます。

ワークステーションまたはネットワーク上でのコンソールレイヤーおよび基本ヘルプ

共通ネットワーク位置、または GUI による監視を行う各ワークステーション上に、Sun Management Center コアコンソールレイヤー、基本的なヘルプコマンド、およびコンソール DR サポートをインストールし、設定します。

Sun SPARC Enterprise Mx000 サーバー上でプリインストールされているプラットフォームエージェントレイヤー

監視を行う Sun SPARC Enterprise Mx000 サーバーのサービスプロセッサ上に、Sun Management Center ソフトウェアをインストールする必要はありません。サービスプロセッサには、コアソフトウェアとアドオンソフトウェアの両方がプリインストールされています。

ホストとインストール済みレイヤー

Sun SPARC Enterprise Mx000 サーバースポートについては、表 2-2 に示すように、Sun Management Center アドオンソフトウェアのインストールと設定を行います。『Sun Management Center インストールと構成ガイド』では、サーバーとコンソールホスト上でのコアソフトウェアのインストールと設定について説明します。また、Sun Management Center ソフトウェアの起動と停止手順についても説明します。

表 2-2 ホストとインストール済みレイヤー

ホスト	レイヤー	インストール済みソフトウェア
Sun Management Center サーバーマシン	サーバー	コア Sun Management Center サーバースマシン コア Sun Management Center エージェントレイヤー (自動) Sun SPARC Enterprise Mx000 サーバードメイン監視サーバーコンポーネント Sun SPARC Enterprise Mx000 サーバードメイン DR サーバーコンポーネント Sun SPARC Enterprise Mx000 サーバープラットフォーム管理サーバーコンポーネント
ワークステーションまたは 共通のネットワーク	コンソール	コア Sun Management Center コンソールレイヤーおよび基本ヘルプコンポーネント Sun SPARC Enterprise Mx000 サーバープラットフォーム管理コンソールコンポーネント Sun SPARC Enterprise Mx000 サーバードメイン監視コンソールコンポーネント Sun SPARC Enterprise Mx000 サーバードメイン DR コンソールコンポーネント
Sun SPARC Enterprise Mx000 サーバースervice ロセッサ	エージェント	次のソフトウェアがプリインストールされています コア Sun Management Center エージェントレイヤー Sun SPARC Enterprise Mx000 サーバープラットフォーム管理エージェントコンポーネント
Sun SPARC Enterprise Mx000 サーバードメイン	エージェント	Sun SPARC Enterprise Mx000 サーバードメイン監視エージェントコンポーネント Sun SPARC Enterprise Mx000 サーバードメイン DR エージェントコンポーネント

注 - エージェントの更新によるインストールは、サーバードメイン上でのみサポートされています。

Sun Management Center インストール ウィザードによるアドオンソフトウェア のインストール

『Sun Management Center インストールと構成ガイド』の第 6 章「Solaris プラットフォームへの Sun Management Center のインストール」では、すべてのソフトウェアのインストール方法について詳細に説明します。プロセスの概要を以下に示します。

▼ Sun Management Center インストールウィザード によりアドオンソフトウェアをインストールする

1. スーパーユーザーとして、`es-guiinst` コマンドを実行します。

`es-guiinst` コマンドは、『Sun Management Center インストールと構成ガイド』で説明されています。

- a. コアソフトウェアの正しいバージョンをインストールしていない場合は、最初にコア Sun Management Center ソフトウェアのインストール手順またはアップデート手順に従って作業を実行します。
 - b. コアソフトウェアの正しいバージョンをインストールしたあと、ローカルなインストールで使用可能な `es-guiinst` コマンドを使用します。
デフォルトの位置は、`/opt/SUNWsymon/sbin/esguiinst` です。
 - c. 「次へ」をクリックして、次のウィンドウに進みます。
2. 位置を入力するかブラウザして、アドオンソフトウェアイメージのコピー元ディレクトリを選択し、「次へ」をクリックします。
 3. 「アドオン製品の選択」画面に、インストール可能なアドオン製品の選択可能リストが表示されます。Sun SPARC Enterprise Mx000 サーバーに適用するアドオン製品を選択して、「次へ」をクリックします。
ソフトウェアがインストールされます。
 4. ソフトウェアをインストールしたあとで、Sun Management Center セットアップウィザードを使って、ソフトウェアを設定できます。
コアソフトウェアを設定していない場合は、『Sun Management Center インストールと構成ガイド』の第 1 章を参照してください。アドオンソフトウェアを設定するには、17 ページの「[Sun Management Center セットアップウィザードによるアドオンソフトウェアの設定](#)」を参照してください。
 5. `setsunmc` コマンドを使って、監視する Sun SPARC Enterprise Mx000 サーバースerviceプロセス上で、ソフトウェアを設定します。 `s`

Sun Management Center セットアップ ウィザードによるアドオンソフトウェア の設定

この節では、Sun Management Center セットアップウィザードによる、アドオンソフトウェアの設定方法について説明します。手順例では、サーバーマシン上でのソフトウェアの設定について説明します。次の点にも注意してください。

- ドメイン上でソフトウェアを設定するには、SNMPv1 コミュニティー文字列も `oplsunmc` に設定する必要があります。
- サービスプロセッサ上で Sun Management Center アドオンソフトウェアのエージェントレイヤーを設定するには、[111 ページの「setsunmc」](#) を参照してください。

注 – パネルの下部にある「戻る」ボタンが有効な場合 (選択不能状態でない場合)、「戻る」ボタンをクリックすると、直前の操作に戻ることができます。「戻る」ボタンが選択不能な場合 (有効でない場合)、直前の操作に戻ることはできません。

注 – `setup-responses-file` を使って現在のマシンの設定を別のマシンに複製したい場合、Sun Management Center コアソフトウェアのセットアッププロセス中、必ず「Store Response Data」を選択してください。この操作を実行すると、応答がすべて `/var/opt/SUNWsymon/install/setup-responses-file` に保存されます。詳細については、『Sun Management Center インストールと構成ガイド』の「Solaris プラットフォーム上のコア製品とアドオンの設定」を参照してください。

▼ サーバマシンにアドオンソフトウェアを設定する

1. 詳細については、『Sun Management Center インストールと構成ガイド』の第 7 章を参照し、次のコマンドを使用したアドオン製品の設定手順に従ってください。es-guisetup コマンド。

「アドオン製品の選択」パネルが表示された場合、システムにインストールされているアドオン製品のリストには、Sun SPARC Enterprise Mx000 サーバ用アドオンソフトウェアに含まれている製品も表示されます。

システムには次のアドオン製品が新規にインストールされ、設定されます。

- DomMonit SPARC Enterprise Mx000
- Dom DR SPARC Enterprise Mx000
- PlatAdmin SPARC Enterprise Mx000

2. 必要に応じて、設定するアドオンを選択します。「次へ」をクリックして、操作を続行します。

「サーバのセットアップ」パネルに次のメッセージが表示されます。

Updating configuration files...

更新が終了すると、「サーバのセットアップ」パネルに次のメッセージが表示されます。

Sun SPARC Enterprise Mx000 setup is complete.

3. 「次へ」をクリックして、操作を続行します。

▼ サービスプロセッサにアドオンソフトウェアを設定する

サービスプロセッサでは、XSCF プロンプトで `setsunmc` コマンドを使って、Sun Management Center エージェントを設定します。

```
XSCF> setsunmc -s server -z seed -c community_string
```

`setsunmc` コマンドの詳細については、[111 ページ](#)の「`setsunmc`」を参照してください。

セキュリティアクセスの設定



注意 – Sun Management Center ソフトウェアをインストールしてセットアップしたあと、実行するタスクに従ってユーザーをセットアップする必要があります。この節では、次の手順を実行するための方法を説明します。

[20 ページ](#)の「[デフォルトの Sun Management Center アクセス特権を設定する](#)」。

[20 ページ](#)の「[プラットフォームビューとドメインビューの管理グループを設定する](#)」 – またデフォルトの Sun Management Center 管理グループに加え、プラットフォーム管理モジュール内のドメインビューを使用する追加グループに対して、ユーザーの作成と追加を行う必要もあります。

[21 ページ](#)の「[サービスプロセッサに特権を設定する](#)」 – プラットフォーム管理モジュールからアクティブ管理操作を起動するには、ユーザーはサービスプロセッサ上で有効な XSCF ユーザー名と `platadm` 特権を保持している必要があります。



注意 – すべてのユーザー名は最大 16 のグループに関連付けることが可能です。16 番目以降のグループはすべて無視されるため、このユーザーに対してアクセス障害が発生します。つまり、1 人のユーザーは 1 つのグループに属しているように見えても、16 グループという上限を超えると、ユーザーはそのグループのアクセス特権を保持できないということです。

▼ デフォルトの Sun Management Center アクセス特権を設定する

- セキュリティー機能、ユーザーとグループ、およびその特権の詳細については、『Sun Management Center ユーザーズガイド』の「Sun Management Center のセキュリティー」の章を参照してください。

Sun SPARC Enterprise Mx000 サーバーの管理グループの詳細については、[35 ページ](#)の「アクセス特権のための管理グループ」を参照してください。

▼ プラットフォームビューとドメインビューの管理グループを設定する

1. `groupadd` コマンドを使って、プラットフォームビューとドメインビューの管理グループ名を、`/etc/group` ファイルに追加します。

```
% /usr/sbin/groupadd groupname
```

ドメインビューの場合、`groupname` の値は次のいずれかになります。

- `dom0adm`
- `dom1adm`
- `dom2adm`

以下同じように、次の値まで、すべてのドメイン名に値が割り当てられます。

- `dom23adm`

プラットフォームビューの場合、`groupname` の値は次のいずれかになります。

- `platadm`
- `platop` (読み取り専用特権)

注 - `platadm` グループ名と、[21 ページ](#)の「サービスプロセッサに特権を設定する」で説明する `platadm` 特権の違いに注意してください。 `platadm` グループ名の最後に、必ず `n` を付加してください。

2. `/etc/group` ファイルを編集して、グループにユーザー名を追加します。

▼ サービスプロセッサに特権を設定する

この手順を実行するには、特権 `useradm` を割り当てられた XSCF アカウントが必要です。詳細については、Sun SPARC Enterprise Mx000 サーバーの管理者ガイドまたはリファレンスマニュアル、または `adduser(8)`、`password(8)`、`setprivileges(8)` の各マニュアルページを参照してください。

1. XSCF ユーザーアカウントが存在しない場合、`adduser` コマンドと `password` コマンドを使ってアカウントとパスワードを作成します。
 - a. ユーザーを追加します。

```
XSCF> adduser user
```

- b. ユーザーのパスワードを設定します。

```
XSCF> password user  
Please enter your password:
```

2. `setprivileges` コマンドにより、`user` の `platadm` 特権を追加します。

```
XSCF> setprivileges user platadm
```

3. ユーザーを FRU (50 ページの「FRU の交換」) に置き換える場合、ユーザーの `fieldeng` 特権を追加します。

```
XSCF> setprivileges user fieldeng
```

CLI による Sun Management Center ソフトウェアの起動

es-start コマンドは、どのコンポーネントを起動するかによって必要なコマンド引数が異なります。es-start のオプションのリストについては、『Sun Management Center インストールと構成ガイド』を参照してください。-h オプションを付けて es-start コマンドを実行しても、すべてのオプションのリストが表示されます。以下の手順で、es-start の一部の共通オプションについて説明します。

▼ Sun Management Center ソフトウェアをインストールする

1. コンポーネントを起動するマシンにスーパーユーザーとしてログインします。コンポーネントの場所は、[表 2-2](#) を参照してください。
2. /opt/SUNWsymon/sbin ディレクトリに移動します。
この例では、ソフトウェアはデフォルトの場所である /opt にインストールされているものとしています。そうでない場合は、/opt ディレクトリを実際のパスに変更してください。

```
# cd /opt/SUNWsymon/sbin
```

3. サービスプロセッサの XSCF プロンプトで setsnmp コマンドと setsunmc コマンドを実行して、SNMP エージェントをアクティブ化し、Sun Management Center エージェントを起動します。

```
XSCF> setsnmp enable  
XSCF> setsunmc enable
```

詳細については、[111 ページの「setsunmc」](#)と、setsnmp(8) および setsunmc(8) のマニュアルページを参照してください。

4. Sun Management Center エージェントレイヤーしかインストールされていない Sun SPARC Enterprise Mx000 サーバードメイン上で、Sun Management Center エージェントを起動するには、次のように入力します。

```
# ./es-start -a
```

5. すべてのレイヤーがインストールされている Sun Management Center サーバードメイン上のすべての Sun Management Center コンポーネントを起動するには、次のように入力します。

```
# ./es-start -A
```

注 – 再起動時、すべての Sun Management Center エージェントが自動的に起動します。

6. コンソールを起動するには、次のように入力します。

```
# ./es-start -c
```

注 – コンソールを起動する場合、自分のユーザー ID でログインすることもできます。この場合、スーパーユーザーとしてログインする必要はありません。ただし、Platform または Domain Config Reader にアクセスするには、適切なセキュリティアクセスグループに属している必要があります。[35 ページの「アクセス特権のための管理グループ」](#)を参照してください。

注 – プラットフォームの管理モジュールは、サービスプロセッサの「詳細」ウィンドウの「モジュールマネージャー」タブに一覧表示されています。このプラットフォーム管理モジュールはアンロードしないでください。誤ってアンロードした場合は、[28 ページの「プラットフォーム管理モジュールを再ロードする」](#)の手順に従って再ロードします。

CLI による Sun Management Center ソフトウェアの停止と終了

この節では、Sun Management Center ソフトウェアの停止と終了について説明します。

- サーバーとエージェントコンポーネントを停止するには、適切なコマンド引数を指定して `es-stop` コマンドを入力します。
- メインコンソールウィンドウからコンソールを終了します。

▼ サーバーとエージェントを停止する

`es-stop` コマンドは、どのコンポーネントを停止するかによって必要なコマンド引数が異なります。`es-stop` のオプションのリストについては、『Sun Management Center インストールと構成ガイド』を参照してください。`-h` オプションを付けて `es-stop` コマンドを実行しても、すべてのオプションのリストが表示されます。以下の手順で、`es-stop` の一部の共通オプションについて説明します。

1. コンポーネントを停止するマシンにスーパーユーザーとしてログインします。コンポーネントの場所は、[表 2-2](#) を参照してください。
2. `/opt/SUNWsymon/sbin` ディレクトリに移動します。
3. この例では、ソフトウェアはデフォルトの場所である `/opt` にインストールされているものとしています。そうでない場合は、`/opt` ディレクトリを実際のパスに変更してください。

```
# cd /opt/SUNWsymon/sbin
```

4. サーバーとサーバーマシン上のエージェントコンポーネントを停止するには、次のように入力します。

```
# /es-stop -A
```

5. ドメインに対して、ホストマシン上のドメインエージェントコンポーネントを停止するには、次のように入力します。

```
# /es-stop -a
```

6. サービスプロセッサ上で、サービスプロセッサとプラットフォームエージェントを監視しているホストエージェントを停止するには、XSCF プロンプトを表示し、次のように入力します。

```
XSCF> setsunmc disable
```

setsunmc コマンドの詳細については、[111 ページの「setsunmc」](#)を参照してください。

▼ コンソールを終了する

1. メインコンソールウィンドウのメニューバーから、「ファイル」、「終了」の順に選択します。
2. 「Sun Management Center を終了」パネルの「終了」ボタンをクリックします。

セットアップパラメータの再構成

セットアップスクリプト (es-setup) を再実行することによって、いつでも Sun SPARC Enterprise Mx000 サーバーのセットアップパラメータを再構成することができます。特定の変更を実行した場合、次のようにセットアップパラメータを適切に変更する必要があります。

- Sun SPARC Enterprise Mx000 サーバーのシステム名を変更した場合、Sun SPARC Enterprise Mx000 サーバードメインとプラットフォームコンポーネントを再構成する。
- ドメインエージェントに対して Sun Management Center エージェントのポート構成を変更した場合、Sun SPARC Enterprise Mx000 サーバープラットフォームコンポーネントを再構成する。

- Sun Management Center サーバーホストまたはトラップエージェントのポート構成を変更した場合、プラットフォームとドメインのコンポーネントを再構成する。
 - ホストの IP アドレスを変更した場合、そのホスト上のコンポーネントを再構成する。
- 各コンポーネントの場所については、[表 2-2](#) を参照してください。

▼ セットアップを再実行する

1. コンポーネントを再構成するマシンにスーパーユーザーとしてログインします。コンポーネントの場所は、[表 2-2](#) を参照してください。
2. `/opt/SUNWsymon/sbin` ディレクトリに移動します。
3. この例では、デフォルトの領域である `/opt` を使用するものとしています。そうでない場合は、`/opt` を実際のパスに変更してください。

```
# cd /opt/SUNWsymon/sbin
```

4. 再構成するコンポーネントを停止します。
コンポーネントを停止するために使用するコマンドは、再構成するコンポーネントによって異なります。
5. サーバーとサーバーマシン上で現在動作しているエージェントコンポーネントを停止するには、次のように入力します。

```
# ./es-stop -Sa
```

6. ドメイン内で現在動作しているドメインエージェントを停止するには、次のように入力します。

```
# ./es-stop -a
```

- サービスプロセッサ上の Sun Management Center エージェントを停止するには、XSCF プロンプトで `setsunmc` コマンドを実行します。
`setsunmc` コマンドの詳細については、[111 ページの「setsunmc」](#) を参照してください。

7. 再構成するコンポーネント上で `setup` を再実行します。
8. Sun Management Center のコアソフトウェアとアドオンソフトウェアを再構成するには、`setup` スクリプトを実行します。

```
# ./es-setup -F
```

`es-setup` コマンドの他の引数の詳細については、『Sun Management Center インストールと構成ガイド』を参照してください。

- サービスプロセッサ上で、`setsunmc` コマンドを実行して、ソフトウェアを再構成します。
`setsunmc` コマンドの詳細については、111 ページの「`setsunmc`」を参照してください。

9. 対応するコンポーネントのセットアップ手順に従ってください。ただし、次の 2 つのプロンプトが追加されています。

Sun Management Center サーバーのセットアップでは、次のメッセージが表示されます。

```
Do you want to preserve your existing data? [y|n|q]
```

注 - `y` を選択すると、未対応のアラームと対応済みのアラーム、ロードされたモジュールとその構成、検出、管理対象オブジェクト、規則のしきい値など、データベースのすべてのデータが保存されます。

- a. 既存のトポロジとイベントデータを維持するには `y` を入力し、データを破棄するには `n` を入力します。

ドメインエージェントのセットアップでは、次のメッセージが表示されます。

```
server-hostname appears to be configured as your Sun Management Center server.  
Is this correct? [y|n|q]
```

- b. Sun Management Center サーバーが正しい場合は `y` を入力し、正しくない場合は `n` を入力します。 `n` を入力した場合は、正しいサーバーホスト名の入力を求められます。

10. 停止したコンポーネントを再起動します。

▼ プラットフォーム管理モジュールを再ロードする

注 – Sun SPARC Enterprise Mx000 サーバーのプラットフォーム管理モジュールは、サービスプロセッサからアンロードしないでください。誤ってアンロードした場合は、次に説明する方法を使用して再ロードします。

1. サービスプロセッサにログインします。
platadm 特権または fieldeng 特権が必要です。
2. `setsunmc disable` を使用して、サービスプロセッサの Sun Management Center エージェントを無効にします。

```
XSCF> setsunmc disable
```

3. XSCF プロンプトで、`setsunmc -s` を使用してサーバー名をリセットします。

```
XSCF> setsunmc -s server
```

4. `setsunmc enable` を使用して、サービスプロセッサの Sun Management Center エージェントを有効にします。

```
XSCF> setsunmc enable
```

プラットフォーム管理モジュールが「詳細」ウィンドウに再び表示されるようになります。

`setsunmc` コマンドの詳細については、[111 ページ](#)の「`setsunmc`」を参照してください。

CLI によるソフトウェアのアンインストール

次のものをアンインストールできます。

- サーバーおよびコンソールホストのすべての Sun Management Center ソフトウェア (29 ページの「すべての Sun Management Center ソフトウェアをアンインストールする」を参照)
- サーバーおよびコンソールホストの Sun SPARC Enterprise Mx000 サーバーアドオンソフトウェアのみ (31 ページの「アドオンソフトウェアのみをアンインストールする」を参照)

Sun SPARC Enterprise Mx000 サーバーのサービスプロセッサにプリインストールされている Sun Management Center ソフトウェアはアンインストールできません。

▼ すべての Sun Management Center ソフトウェアをアンインストールする

1. スーパーユーザーとして、次のように入力します。

```
# /opt/SUNWsymon/sbin/es-uninst
```

この例では、ソフトウェアはデフォルトの場所である /opt/SUNWsymon/sbin にあるものとしています。そうでない場合は、デフォルトディレクトリを実際のパスに変更してください。

次のメッセージが表示されます。

```
This script will help you to uninstall the Sun Management Center software.
```

```
Following Sun Management Center Products are installed:
```

```
-----  
PRODUCT                                DEPENDENT PRODUCTS  
-----  
Production Environment                  All Addons  
DomMonit SPARC Enterprise Mx000        None  
Dom DR SPARC Enterprise Mx000          None  
PlatAdmin SPARC Enterprise Mx000      None
```

```
Do you want to uninstall Production Environment? [y|n|q]
```

2. `y` を入力すると本稼働環境がアンインストールされ、すべての Sun Management Center ソフトウェアがアンインストールされます。

次のメッセージが表示されます。

```
This will uninstall ALL Sun Management Center Products. !!!  
  
Do you want to change selection? [y|n|q]
```

3. 次のいずれかを行います。

- 選択を変更するには `y` を入力します。
選択内容が表示されます。手順の先頭に移動します。
- 選択を変更しない場合は、`n` を入力します。
次のメッセージが表示されます。

```
Select Save Data to save all user and configuration data. Your  
data is saved and can be restored when you re-install Sun  
Management Center.  
Do you want to preserve data? [y|n|q]
```

注 - `y` を選択すると、未対応のアラームと対応済みのアラーム、ロードされたモジュールとその構成、検出、管理対象オブジェクト、規則のしきい値など、データベースのすべてのデータが保存されます。

4. 既存のトポロジとイベントデータを維持するには `y` を入力し、データを破棄するには `n` を入力します。

次のメッセージが表示されます。

```
Proceed with uninstall? [y|n|q]
```

5. アンインストールを続行するには `y` を入力します。アンインストールを中止するには `n` を入力します。

`y` を入力して続行すると、アンインストールされるパッケージのリスト、アンインストールされているパッケージ、アンインストールのステータス、およびログファイルの場所が表示されます。

▼ アドオンソフトウェアのみをアンインストールする

1. Sun SPARC Enterprise Mx000 ドメインの「詳細」ウィンドウの「モジュールマネージャー」タブで、ドメイン DR モジュールをアンロードします。

ドメイン DR モジュールをアンインストールする場合は、最初にモジュールをアンロードする必要があります。モジュールのロードとアンロードの詳細については、『Sun Management Center ユーザーズガイド』を参照してください。

2. スーパーユーザーとして、次のように入力します。

```
# ./es-uninst
```

3. 次のメッセージが表示されます。

```
This script will help you to uninstall the Sun Management Center software.
```

```
Following Sun Management Center Products are installed:
```

```
-----  
PRODUCT                                DEPENDENT PRODUCTS  
-----  
Production Environment                  All Addons  
DomMonit SPARC Enterprise Mx000         None  
Dom DR SPARC Enterprise Mx000           None  
PlatAdmin SPARC Enterprise Mx000       None
```

```
Do you want to uninstall Production Environment? [y|n|q]
```

4. 本稼働環境をアンインストールしない場合は、n を入力します。



注意 - y を入力して本稼働環境をアンインストールした場合、コアソフトウェアを含むすべての Sun Management Center ソフトウェアが削除されます。

5. 次のメッセージが表示されます。

```
Do you want to uninstall DomMonit SPARC Enterprise Mx000? [y|n|q]
```

6. DomMonit SPARC Enterprise Mx000 をアンインストールするには、`y` を入力します。
7. 削除される製品および次のメッセージが表示されます。

```
Do you want to change selection? [y|n|q]
```

8. 次のいずれかを行います。
 - 選択を変更するには `y` を入力します。
選択内容が表示されます。手順 2 の先頭に移動します。
 - 選択を変更しない場合は、`n` を入力します。
9. 次のメッセージが表示されます。

```
Select Save Data to save all user and configuration data. Your data  
is saved and can be restored when you re-install Sun Management  
Center.  
Do you want to preserve data? [y|n|q]
```

注 - `y` を選択すると、未対応のアラームと対応済みのアラーム、ロードされたモジュールとその構成、検出、管理対象オブジェクト、規則のしきい値など、データベースのすべてのデータが保存されます。

10. 既存のトポロジとイベントデータを維持するには `y` を入力し、データを破棄するには `n` を入力します。
11. 次のメッセージが表示されます。

```
Proceed with uninstall? [y|n|q]
```

12. アンインストールを続行するには `y` を入力します。アンインストールを中止するには `n` を入力します。
`y` を入力して続行すると、アンインストールされるパッケージのリスト、アンインストールされているパッケージ、アンインストールのステータス、およびログファイルの場所が表示されます。

インストールとセットアップのログファイル

この節では、インストールスクリプトおよびセットアップスクリプトの最後に表示されるメッセージの例を示します。これらのファイルを参照することで、インストールおよびセットアップの間に問題が発生したかどうかを確認できます。また、これらのファイルを使用してエラーを診断できます。

次に示すのは、インストールスクリプトが完了したときのメッセージ例です。*nnnnnnnnnnnnnn.nnnnn* は、インストールログの識別番号です。

```
Log file: /var/opt/SUNWsymon/install/install.nnnnnnnnnnnnn.nnnnn
```

次に示すのは、セットアップスクリプトが完了したときのメッセージ例です。*nnnnnnnnnnnnnn.nnnn* は、セットアップログの識別番号です。

```
Log file: /var/opt/SUNWsymon/install/setup.nnnnnnnnnnnnn.nnnn
```

SPARC Enterprise サーバーのアドオンソフトウェア固有パッケージ

Sun SPARC Enterprise Mx000 サーバーのアドオンソフトウェアは、[表 2-3](#) の一覧で示されているパッケージで提供されます。アドオンソフトウェアは、エージェント、コンソール、およびサーバーレイヤーにインストールします。

表 2-3 Sun SPARC Enterprise Mx000 サーバー用の Sun Management Center パッケージ (続き)

パッケージ	説明	レイヤー
プラットフォーム管理:		
SUNWesopls	OPL プラットフォーム管理用 SunMC サーバーサポートパッケージ	サーバー
SUNWesopli	OPL プラットフォーム管理用 SunMC サーバーサポートパッケージ	サーバー
SUNWesoplc	Sun Management Center コンソール OPL プラットフォーム管理	サーバー

表 2-3 Sun SPARC Enterprise Mx000 サーバー用の Sun Management Center パッケージ (続き)

パッケージ	説明	レイヤー
SUNWesopl _c	Sun Management Center コンソール OPL プラットフォーム管理	コンソール
ドメイン管理:		
SUNWesopl _{ds}	OPL ドメイン管理用 SunMC サーバーサポートパッケージ	サーバー
SUNWesopl _{da}	OPL ドメイン用 Sun Management Center エージェントレイヤーサポート	ドメインエージェント
SUNWesopl _{di}	OPL ドメイン管理用 SunMC サーバーおよびエージェントサポートパッケージ	ドメインエージェント
ドメイン動的再構成:		
SUNWensdo	Sun Management Center OPL システム動的再構成メッセージ	サーバー
SUNWescdo	OPL システムでの動的再構成用 Sun Management Center コンソールサポート	サーバー
SUNWessdo	OPL システムでの動的再構成用 Sun Management Center サーバーサポート	サーバー
SUNWensdo	Sun Management Center OPL システム動的再構成メッセージ	コンソール
SUNWescdo	OPL システムでの動的再構成用 Sun Management Center コンソールサポート	コンソール
SUNWesado	OPL システムでの動的再構成用 Sun Management Center エージェントサポート	ドメインエージェント

ネットワークポートの構成

Sun Management Center ソフトウェアでは、システムのさまざまなコンポーネントと通信するためにネットワークポートが必要です。これらのコンポーネントに対するデフォルトのポートアドレスを表 2-4 に示します。

表 2-4 Sun Management Center のデフォルトのポートアドレス

レイヤー	コンポーネント	デフォルトポート番号
エージェント	SNMP エージェント	161
サーバー	トラップハンドラ	162
サーバー	イベントマネージャー	163
エージェント	サービスプロセッサエージェント	1161

表 2-4 Sun Management Center のデフォルトのポートアドレス

レイヤー	コンポーネント	デフォルトポート番号
エージェント	ドメインエージェント	1161
サーバー	設定サーバー	165
サーバー	メタデータ	165

アクセス特権のための管理グループ

Sun Management Center ソフトウェアをインストールしてセットアップしたあと、実行するタスクに従ってユーザーをセットアップする必要があります。この節では、このアドオンソフトウェアで使用するためのデフォルトの Sun Management Center 管理グループを一覧表示して説明します。これらのグループでのユーザーのセットアップ、プラットフォーム管理モジュールでのドメインビュー用の管理グループのセットアップ、およびサービスプロセッサでの Sun Management Center ユーザー用の特権の設定については、[19 ページの「セキュリティアクセスの設定」](#)を参照してください。

デフォルトの Sun Management Center 管理グループ

表 2-5 では、Sun SPARC Enterprise Mx000 サーバーに適用されるデフォルトの Sun Management Center 管理グループを一覧表示します。

表 2-5 デフォルトの Sun Management Center 管理グループ

グループ名	グループ	説明
esadm	アドミニストレータグループ	モジュールのロードとアンロード、ユーザーおよびグループのアクセスコントロールの管理、および管理ドメイン、ホスト、モジュールについての作業など、すべての管理タスクを実行できます。
esops	オペレータグループ	esadm の特権のサブセットが許可されます。モジュールを使用可能および使用不可にすることはできますが、モジュールのロードおよびアンロードを行うことはできません。監視タスクを実行できます。イベントを確認、削除、または修正できます。
esdomadm	ドメイングループ	esadm の特権の Sun Management Center ドメイン固有のサブセットが許可されます。管理ドメインの作成、管理ドメイン内のグループの作成、グループまたは管理ドメインへのオブジェクトの追加を行うことができます。
ANYGROUP	一般ユーザーグループ	デフォルトでは、esusers ファイルに記載されているすべてのユーザーは、ANYGROUP グループのメンバーと見なされます。管理ドメイン、ホスト、モジュール、イベントの表示、データのグラフ化、および手動更新のトリガーを行うことができます。アドホックコマンドを実行することもできます。

第3章

プラットフォーム管理

この章では、プラットフォーム管理モジュール (Plat Admin Module SPARC Enterprise Mx000) について次の節で説明します。

- 38 ページの「プラットフォーム管理モジュールについて」
- 39 ページの「プラットフォーム管理モジュールへのアクセス」
 - 39 ページの「プラットフォーム管理モジュールにアクセスする」
- 40 ページの「プラットフォーム管理モジュールでのアクティブ管理の実行」
 - 41 ページの「サーバーハードウェアの設定」
 - 43 ページの「サーバーハードウェアのアップグレード、ダウングレード、再タスク実行」
 - 49 ページの「サーバーハードウェアの操作と維持管理」
 - 50 ページの「FRU の交換」
- 53 ページの「プラットフォーム管理のプロパティおよびタスク」
 - 55 ページの「プラットフォームビューテーブル」
 - 69 ページの「外部 I/O」
 - 74 ページの「ドメインビュー」

また、これらのセクションのプラットフォームの「詳細」ウィンドウで、プラットフォームのハードウェア概要および物理ビューと論理ビューにアクセスする方法についても説明します。

- 78 ページの「「ハードウェア」タブについて」
 - 78 ページの「物理表示」
 - 79 ページの「論理表示」
- 79 ページの「「ハードウェア」タブの表示へのアクセス」
 - 79 ページの「物理表示にアクセスする」
 - 80 ページの「論理表示にアクセスする」

プラットフォーム管理モジュールについて

プラットフォーム管理モジュール Plat Admin Module SPARC Enterprise Mx000 では、サーバープラットフォーム全体のハードウェア構成に関する情報を提供します。また、このモジュールでは、サーバーのアクティブ管理のための対話型ポップアップメニューも提供します。

注 – プラットフォーム管理モジュールはデフォルトでロードされます。プラットフォーム管理モジュールのアンロードおよび再ロードはサポートされていません。

プラットフォーム管理モジュールの更新

プラットフォーム管理モジュールは、プラットフォームの情報を格納します。この情報の収集と更新は、2つの方法で行われます。

- 定期的な間隔 (60 分ごと) で、プラットフォーム管理モジュールはサービスプロセス上の SNMP マネージャーと交信して、キャッシュの全内容を再設定します。更新間隔の値を変更することはできません。
- 温度や電圧などのプラットフォームのプロパティが変化するたびに、SNMP マネージャーは Sun Management Center ソフトウェアに通知します。プラットフォーム管理モジュールは、ブラウザビューの影響を受けたハードウェアテーブルを更新します。

プラットフォームの「詳細」ウィンドウからブラウザを使用することで、モジュールの任意のプロパティを更新できます。ただし、この方法で取得できるのは、プラットフォームエージェントのプロパティの現在の値だけです。データの再計算は行われません。

プラットフォーム管理モジュールへのアクセス

▼プラットフォーム管理モジュールにアクセスする

1. プラットフォームの「詳細」ウィンドウに移動します。

メインコンソールウィンドウから、次のいずれかの方法を使用して、対象プラットフォームの「詳細」ウィンドウを開きます。

 - サーバーのアイコンをダブルクリックします。
 - サーバーのアイコンを右クリックして、ポップアップメニューから「詳細」を選択します。
 - サーバーのアイコンを選択して、「ツール」メニューの「詳細」を選択します。

プラットフォームの「詳細」ウィンドウが表示されます。デフォルトでは、「モジュールブラウザ」タブが開きます。
2. プラットフォーム管理モジュールを展開します。

「詳細」ウィンドウで、「ハードウェア」アイコンを探します。次のいずれかの方法を使用して、アイコンを展開するか開きます。

 - モジュールのアイコンの左側にある展開アイコンを1回クリックします。

「ハードウェア」アイコンが左側の区画に展開されて、「Plat Admin Module SPARC Enterprise Mx000」というラベルの付いたプラットフォーム管理アイコンが表示されます。
 - モジュールのアイコンをダブルクリックします。

「ハードウェア」アイコンが左側の区画に展開されて、プラットフォーム管理モジュールアイコンが表示されます。右側の区画にもモジュールのアイコンが表示されます。

モジュールのアイコンをダブルクリックすると、プラットフォーム管理モジュールが左の区画に表示され、その内容が右の区画に表示されます。

3. テーブルを参照してプラットフォームの状態を監視します。

テーブルに表示されるプロパティを参照するには、[手順 2](#) で説明されている方法を使用します。

4. アクティブ管理タスクを実行します。

プラットフォーム管理モジュールでアクティブ管理タスクを実行するには、特定のテーブルを右クリックします。一般的なタスクの実行方法の詳細については、[40 ページの「プラットフォーム管理モジュールでのアクティブ管理の実行」](#)を参照してください。各テーブルで使用可能なタスクのリストについては、モジュールのさまざまなテーブルについての参照セクションも参照してください。

プラットフォーム管理モジュールでのアクティブ管理の実行

この節では、プラットフォーム管理モジュールで特定のプラットフォーム管理モジュールテーブルを右クリックして行う、Sun SPARC Enterprise サーバーを管理するための一般的なタスクの実行方法について説明します。モジュールで使用可能なアクティブ管理コマンドの完全なリストについては、テーブルおよびそれに関連するポップアップメニューについて説明されている [53 ページの「プラットフォーム管理のプロパティおよびタスク」](#)の参照セクションを参照してください。

この節では、次のタスクを実行するための手順を説明します。

- [41 ページの「サーバーハードウェアの設定」](#)
 - [41 ページの「簡単なドメインを構築する」](#)
- [43 ページの「サーバーハードウェアのアップグレード、ダウングレード、再タスク実行」](#)
 - [43 ページの「XSB をドメインから削除する」](#)
 - [44 ページの「XSB をドメインに追加する」](#)
 - [44 ページの「ドメインを再構成する」](#)
 - [47 ページの「XSB を移動する」](#)
 - [48 ページの「I/O ボートの電源を切る」](#)
- [49 ページの「サーバーハードウェアの操作と維持管理」](#)
 - [49 ページの「ドメインの電源を入れる」](#)
 - [49 ページの「ドメインをリセットする」](#)
 - [50 ページの「ドメインの電源を切る」](#)

サーバーハードウェアの設定

この節では、簡単なドメインを構築するために必要な手順について説明します。

▼ 簡単なドメインを構築する

1. ソフトウェアにログインし、プラットフォームの「詳細」ウィンドウでプラットフォーム管理モジュールに移動します。
2. モジュール項目を展開してテーブルを表示します。
3. ドメインコンポーネントリスト (Domain Component List、DCL) を設定します。
 - a. 「ドメイン」テーブルに移動し、対象ドメインの行を選択します。
 - b. 「ドメイン」テーブルを右クリックします。
ポップアップメニューが表示されます。
 - c. 「LSB への XSB の割り当て」を選択します。
「LSB への XSB の割り当て」ダイアログが表示されます。対象ドメインのドメイン ID が表示されます。
 - d. 対象の LSB と XSB の ID を選択し、「割り当てリストに追加」ボタンをクリックします。
 - e. 「XSB の割り当て」ボタンをクリックします。
割り当てが実行されます。「進捗」ウィンドウに進行状況の情報が表示されます。
 - f. 「閉じる」をクリックしてダイアログを閉じます。
4. 物理システムボードモードを設定します。
 - a. 「システムボード」テーブルに移動し、対象のシステムボードの行を選択します。
 - b. 「システムボード」テーブルを右クリックします。
ポップアップメニューが表示されます。
 - c. 「SB モードの設定」を選択します。
「SB モードの設定」ダイアログが表示されます。対象のシステムボードが、「選択済みシステムボード」フィールドに表示されます。
 - d. 設定するモードを選択します。

- e. 「モードの設定」ボタンをクリックします。
選択したモードに設定されます。「進捗」ウィンドウに進行状況の情報が表示されます。
 - f. 「閉じる」をクリックしてダイアログを閉じます。
5. XSB をドメインに追加します。
- a. 「XSB」テーブルに移動し、対象 XSB の行を選択します。
 - b. 「XSB」テーブルを右クリックします。
ポップアップメニューが表示されます。
 - c. 「XSB の追加」を選択します。
「XSB の追加」ダイアログが表示されます。対象のボードが、「選択済みボード」フィールドに表示されます。対象ボードの現在の割り当てと構成の状態が、「現在の状態」ボックスに表示されます。
 - d. 「XSB をドメインに追加」フィールドで、XSB を追加するドメインの ID を選択します。
 - e. 「XSB を追加した後の状態」ボックスで、「構成済み」を選択します。
 - f. 「XSB の追加」ボタンをクリックします。
XSB がドメインに追加されます。「進捗」ウィンドウに進行状況の情報が表示されます。
 - g. 「閉じる」をクリックしてダイアログを閉じます。
6. ドメインの電源を入れます。
- a. 「ドメイン」テーブルに移動し、対象ドメインを選択します。
 - b. 「ドメイン」テーブルを右クリックします。
ポップアップメニューが表示されます。
 - c. 「ドメインの電源を入れる」を選択します。
「電源投入」確認ダイアログが表示されます。対象ドメインの名前がダイアログに表示されます。
 - d. 「OK」をクリックして、ドメインの電源を入れます。

サーバーハードウェアのアップグレード、ダウングレード、再タスク実行

この節では、次の一般的なタスクを実行するために必要な手順について説明します。

- 43 ページの「XSB をドメインから削除する」
- 44 ページの「XSB をドメインに追加する」
- 44 ページの「ドメインを再構成する」
- 47 ページの「XSB を移動する」
- 48 ページの「I/O ポートの電源を切る」

▼ XSB をドメインから削除する

1. 「XSB」テーブルに移動し、対象 XSB の行を選択します。
対象の XSB のドメイン ID を記録します。
2. テーブルを右クリックします。
ポップアップメニューが表示されます。
3. 「XSB の削除」を選択します。
「XSB の削除」ダイアログが表示されます。対象の XSB が、「選択済みボード」フィールドに表示されます。現在の割り当てと構成の状態が、「現在の状態」ボックスに表示されます。
4. 「XSB を削除した後の状態」ボックスで、適切な状態を選択します。
デフォルト値は「未割り当て」です。
 - 「未割り当て」 – XSB をドメインの構成から完全に削除して、システムボードプールに入れます。システムボードプールの XSB は、他のドメインに追加したり割り当てたりできます。
 - 「切断」 – XSB をドメインの構成から削除しますが、ドメインに割り当てられた状態のままにします。再起動するか、「XSB の追加」ダイアログを使用するだけで、XSB を同じドメインの構成に追加できます。
 - 「予約済み」 – すぐには XSB をドメインの構成から削除しません。次にドメインの電源を切った後で、XSB はドメインの構成から完全に削除されて、システムボードプールの一部になります。
5. 「XSB の削除」をクリックします。
XSB の削除アクションが実行されます。「進捗」ウィンドウに進行状況の情報が表示されます。
6. 「閉じる」をクリックしてダイアログを閉じます。

▼ XSB をドメインに追加する

1. 「XSB」テーブルに移動し、対象 XSB の行を選択します。
2. 「XSB」テーブルを右クリックします。
ポップアップメニューが表示されます。
3. 「XSB の追加」を選択します。
「XSB の追加」ダイアログが表示されます。対象の XSB が、「選択済みボード」フィールドに表示されます。現在の割り当てと構成の状態が、「現在の状態」ボックスに表示されます。
4. 「XSB をドメインに追加」フィールドで、XSB を追加するドメインの ID を選択します。
5. 「XSB を追加した後の状態」ボックスで、「構成済み」を選択します。
6. 「XSB の追加」ボタンをクリックします。
XSB がドメインに追加されます。「進捗」ウィンドウに進行状況の情報が表示されます。
7. 「閉じる」をクリックしてダイアログを閉じます。

▼ ドメインを再構成する

1. 「システムボード」テーブルに移動し、そのプロパティーを表示します。
再構成するシステムボードを特定し、そのドメイン割り当てプロパティーの値を記録します。これが操作の対象ドメインになります。
2. 対象ドメインの電源を切ります。
 - a. 「ドメイン」テーブルに移動し、対象ドメインの行を選択します。
 - b. 「ドメイン」テーブルを右クリックします。
ポップアップメニューが表示されます。
 - c. 「ドメインの電源を切る」を選択します。
「電源切断」確認ダイアログが表示されます。対象ドメインの名前がダイアログに表示されます。
 - d. 「OK」ボタンをクリックします。

3. XSB をドメインから削除します。
 - a. 「XSB」テーブルに移動し、削除する最初の対象 XSB を選択します。
 - b. 対象の XSB を含む行を右クリックします。
ポップアップメニューが表示されます。
 - c. 「XSB の削除」を選択します。
「XSB の削除」ダイアログが表示されます。対象の XSB が、「選択済みボード」フィールドに表示されます。現在の割り当てと構成の状態が、「現在の状態」ボックスに表示されます。
 - d. 「XSB を削除した後の状態」ボックスで、「未割り当て」を選択します。
 - e. 「XSB の削除」ボタンをクリックします。
XSB の削除アクションが実行されます。「進捗」ウィンドウに進行状況の情報が表示されます。
 - f. 削除するほかの XSB ごとに、a から e の手順を繰り返します。
4. ドメインの LSB をクリアします。
 - a. 「ドメイン」テーブルに移動し、対象ドメインの行を選択します。
 - b. 「ドメイン」テーブルを右クリックします。
ポップアップメニューが表示されます。
 - c. 「LSB のクリア」を選択します。
「LSB のクリア」ダイアログが表示されます。対象のドメインが、「選択済みドメイン」フィールドに表示されます。
 - d. 「LSB のクリア」メニューから、削除する最初の LSB を選択します。
 - e. 「LSB のクリア」ボタンをクリックします。
LSB のクリアアクションが実行されます。「進捗」ウィンドウに進行状況の情報が表示されます。
 - f. LSB ごとに手順 e を繰り返します。
5. システムボードのモードを「Uni-XSB」に設定します。
 - a. 「システムボード」テーブルに移動し、対象のシステムボードの行を選択します。
 - b. 「システムボード」テーブルを右クリックします。
ポップアップメニューが表示されます。

- c. 「SB モードの設定」を選択します。
「SB モードの設定」ダイアログが表示されます。選択したシステムボードが「選択済みシステムボード」フィールドに表示され、現在の SB のモードが「現在のモード」ボックスに表示されます。
 - d. 「SB モードの選択」ボックスで、「Uni-XSB」を選択します。
 - e. 「モードの設定」をクリックします。
モードの設定アクションが実行されます。「進捗」ウィンドウに進行状況の情報が表示されます。
 - f. 「閉じる」ボタンをクリックします。
6. 対象の XSB を対象の LSB に割り当てます。
- a. 「ドメイン」テーブルに移動し、対象ドメインの行を選択します。
 - b. 「ドメイン」テーブルを右クリックします。
ポップアップメニューが表示されます。
 - c. 「LSB への XSB の割り当て」を選択します。
「LSB への XSB の割り当て」ダイアログが表示されます。対象のドメインが、「選択済みドメイン」フィールドに表示されます。
 - d. 「LSB への割り当て」メニューから、対象の LSB を選択します。
 - e. 「割り当てる XSB の選択」ボックスで対象 XSB の ID を選択し、「割り当てリストに追加」をクリックして、「LSB=XSB」リストに追加します。
 - f. 「XSB の割り当て」ボタンをクリックします。
割り当てが実行されます。「進捗」ウィンドウに進行状況の情報が表示されます。
 - g. 「閉じる」をクリックしてダイアログを閉じます。
7. 対象の XSB を対象のドメインに追加します。
- a. 「XSB」テーブルに移動し、対象 XSB を選択します。
 - b. 「XSB」テーブルを右クリックします。
ポップアップメニューが表示されます。
 - c. 「XSB の追加」を選択します。
「XSB の追加」ダイアログが表示されます。選択した XSB が、「選択済みボード」フィールドに表示されます。現在の割り当てと構成の状態が、「現在の状態」ボックスに表示されます。
 - d. 「XSB をドメインに追加」メニューから、対象のドメインを選択します。

- e. 「XSB を追加した後の状態」ボックスで、「割り当て済み」を選択します。
 - f. 「XSB の追加」ボタンをクリックします。
XSB の追加アクションが実行されます。「進捗」ウィンドウに進行状況の情報が表示されます。
 - g. 「閉じる」ボタンをクリックします。
8. ドメインの電源を入れます。
 - a. 「ドメイン」テーブルに移動し、対象ドメインの行を選択します。
 - b. 「ドメイン」テーブルを右クリックします。
ポップアップメニューが表示されます。
 - c. 「ドメインの電源を入れる」を選択します。
「電源投入」確認ダイアログが表示されます。対象ドメインの名前がダイアログに表示されます。
 - d. 「OK」ボタンをクリックします。
 9. ドメインテーブルのアイコンをダブルクリックして、プロパティを表示します。
再構成が正常に完了していることを確認します。

▼ XSB を移動する

1. 「ドメイン」テーブルに移動し、プロパティを表示します。
対象のドメインを特定します。
2. 「XSB」テーブルに移動し、対象のボードの行を選択します。
3. 「XSB」テーブルを右クリックします。
ポップアップメニューが表示されます。
4. 「XSB の移動」を選択します。
「XSB の移動」ダイアログが表示されます。対象の XSB が、「選択済みボード」フィールドに表示されます。現在の割り当てと構成の状態が、「現在の状態」ボックスに表示されます。
5. 「XSB をドメインに移動」メニューから、対象のドメインを選択します。
6. 「XSB を移動した後の状態」ボックスで、「構成済み」を選択します。
7. 「XSB の移動」ボタンをクリックします。
XSB の移動アクションが実行されます。「進捗」ウィンドウに進行状況の情報が表示されます。

8. 「閉じる」ボタンをクリックします。
9. 「ドメイン」テーブルに移動し、プロパティを表示します。
移動が正常に完了していることを確認します。

▼ I/O ポートの電源を切る

1. 対象 I/O ポートのすべての PCI カードがドメイン側から切り離されていることを確認します。
 - a. 次のいずれかの方法を使用して、PCI カードを切り離します。
 - ドメイン DR モジュールを使用して、PCI カードを切り離します。詳細については、第 5 章を参照してください。
 - Solaris ドメインにルートとしてログインします。次に、`cfgadm` コマンドを使用して、PCI カードを切り離します。
 - b. 「ドメイン DR 接続点」テーブルで、受容体のプロパティの値が `DISCONNECTED` であることを確認します。
2. 「IO ポート」テーブルに移動し、対象の I/O ポートの行を選択します。
3. 「IO ポート」テーブルを右クリックします。
ポップアップメニューが表示されます。
4. 「IO ポートの電源を切る」を選択します。
「電源切断」確認ダイアログが表示されます。対象 I/O ポートの名前がダイアログに表示されます。

注 - 「強制オプションを使用する」ボックスをクリックすると、ドメインがクラッシュする可能性があります。ドメインが I/O ポートをまだ使用している間に「強制オプションを使用する」を使用して I/O ポートの電源を切ると、ドメインがクラッシュする可能性があります。ドメインのクラッシュを回避するため、I/O ポートのすべての PCI カードがドメインから切り離されていることを確認してから、電源を切ってください。

5. 「OK」ボタンをクリックします。
電源切断アクションが実行されます。
6. 「IO ポート」テーブルをダブルクリックして、対象の I/O ポートの行を選択します。
対象の I/O ポートでは、電源切断アクションが成功している場合は、「取り外し可能 LED」プロパティの値が「オン」になっています。

7. 「IO ポート」テーブルを右クリックします。
ポップアップメニューが表示されます。
8. 「IO ポート設定ロケータ LED」を選択します。
「IO ポート設定ロケータ LED」ダイアログが表示されます。対象 I/O ポートの名前がダイアログに表示されます。
9. 「オン」を選択して、「OK」ボタンをクリックします。
ロケータ LED 起動されて、ダイアログが閉じます。

サーバーハードウェアの操作と維持管理

▼ ドメインの電源を入れる

1. 「ドメイン」テーブルに移動し、対象ドメインの行を選択します。
2. 「ドメイン」テーブルを右クリックします。
ポップアップメニューが表示されます。
3. 「ドメインの電源を入れる」を選択します。
「電源投入」確認ダイアログが表示されます。対象ドメインの名前がダイアログに表示されます。
4. 「OK」ボタンをクリックします。

▼ ドメインをリセットする

1. 「ドメイン」テーブルに移動し、対象ドメインの行を選択します。
2. 「ドメイン」テーブルを右クリックします。
ポップアップメニューが表示されます。
3. 「ドメインのリセット」を選択します。
「ドメインのリセット」ダイアログが表示されます。対象ドメインの名前がダイアログに表示されます。
4. ドメインをすぐにリセットするには「POR」を選択して、「OK」をクリックします。

▼ ドメインの電源を切る

1. 「ドメイン」テーブルに移動し、対象ドメインの行を選択します。
2. 「ドメイン」テーブルを右クリックします。
ポップアップメニューが表示されます。
3. 「ドメインの電源を切る」を選択します。
「電源切断」確認ダイアログが表示されます。対象ドメインの名前がダイアログに表示されます。
4. 「OK」ボタンをクリックします。

FRU の交換

Sun Management Center を使用する場合、FRU の交換はハイエンドサーバーで次のものについてのみサポートされています。

- システムボード
- CPU/メモリーユニットボード (CMU)
- I/O ユニットボード (IOU)

FRU を交換するには、`fieldeng` 特権が必要です。サービスプロセッサでの特権の設定については、[21 ページの「サービスプロセッサに特権を設定する」](#) および `setprivileges(8)` のマニュアルページを参照してください。

▼ システムボードを交換する

1. サービスプロセッサで XSCF の `deleteboard` コマンドを使用して、交換するすべての拡張システムボード (Extended System Board、XSB) をすべてのドメインから切り離します。
コマンドの使用法の詳細については、Sun SPARC Enterprise Mx000 サーバーのリファレンスマニュアルまたは `deleteboard(8)` のマニュアルページを参照してください。
2. ドメインで `cfgadm` コマンドを使用して、対応する IOU のすべての PCI カードを切り離します。
詳細については、`cfgadm(1M)` のマニュアルページを参照してください。
3. 「システムボード」テーブルに移動し、交換する対象のシステムボードの行を選択します。
4. 「システムボード」テーブルを右クリックします。
ポップアップメニューが表示されます。

5. 「SB の交換」を選択します。
「SB の交換」ダイアログが表示されます。
6. 「SB の交換」ボタンをクリックして、交換プロセスを開始します。
「CMU の交換」ダイアログが表示されます。
7. CMU ボードを物理的に交換します。
手順については、ハードウェアのドキュメントを参照してください。
8. 「CMU の交換」ダイアログで、「OK」ボタンをクリックします。
ダイアログが閉じ、「SB の交換」ダイアログに戻ります。
9. 「IOU の交換」ボタンをクリックします。
「IOU の交換」ダイアログが表示されます。
10. IOU ボードを物理的に交換します。
手順については、ハードウェアのドキュメントを参照してください。
11. 「IOU の交換」ダイアログで、「OK」ボタンをクリックします。
ダイアログが閉じ、「SB の交換」ダイアログに戻ります。
12. 「SB の交換」ダイアログで、「終了」ボタンをクリックします。
13. 「閉じる」ボタンをクリックしてダイアログを閉じます。

▼ システムボードを削除する

1. サービスプロセッサで XSCF の deleteboard コマンドを使用して、削除するすべての拡張システムボード (XSB) をすべてのドメインから切り離します。
コマンドの使用法の詳細については、Sun SPARC Enterprise Mx000 サーバーのリファレンスマニュアルまたは deleteboard(8) のマニュアルページを参照してください。
2. ドメインで cfgadm コマンドを使用して、対応する IOU のすべての PCI カードを切り離します。
詳細については、cfgadm(1M) のマニュアルページを参照してください。
3. 「システムボード」テーブルに移動し、削除する対象のシステムボードの行を選択します。
4. 「システムボード」テーブルを右クリックします。
ポップアップメニューが表示されます。
5. 「SB の削除」を選択します。
「SB の削除」ダイアログが表示されます。

6. 「SB の削除」ボタンをクリックして、削除プロセスを開始します。
「CMU の削除」ダイアログが表示されます。
7. CMU ボードを物理的に削除します。
手順については、ハードウェアのドキュメントを参照してください。
8. 「CMU の削除」ダイアログで、「OK」ボタンをクリックします。
ダイアログが閉じ、「SB の削除」ダイアログに戻ります。
9. 「IOU の削除」ボタンをクリックします。
「IOU の削除」ダイアログが表示されます。
10. IOU ボードを物理的に削除します。
手順については、ハードウェアのドキュメントを参照してください。
11. 「IOU の削除」ダイアログで、「OK」ボタンをクリックします。
ダイアログが閉じ、「SB の削除」ダイアログに戻ります。
12. 「SB の削除」ダイアログで、「終了」ボタンをクリックします。
13. 「閉じる」ボタンをクリックしてダイアログを閉じます。

▼ システムボードを追加する

1. 「システムボード」テーブルに移動します。
2. 「システムボード」テーブルを右クリックします。
ポップアップメニューが表示されます。
3. 「SB の追加」を選択します。
「SB の追加」ダイアログが表示されます。
4. プルダウンメニューで、システムボードを追加する対象の場所を選択します。
5. 「SB の追加」ボタンをクリックします。
システムボード追加プロセスが開始し、「CMU の追加」ダイアログが表示されます。
6. システムボードを物理的に追加します。
手順については、ハードウェアのドキュメントを参照してください。
7. 「CMU の追加」ダイアログで、「OK」ボタンをクリックします。
ダイアログが閉じ、「SB の追加」ダイアログに戻ります。

8. 「IOU の追加」 ボタンをクリックします。
IOU 追加プロセスが開始し、「IOU の追加」 ダイアログが表示されます。
9. IOU を物理的に追加します。
手順については、ハードウェアのドキュメントを参照してください。
10. 「IOU の追加」 ダイアログで、「OK」 ボタンをクリックします。
ダイアログが閉じ、「SB の追加」 ダイアログに戻ります。
11. 「SB の追加」 ダイアログで、「終了」 ボタンをクリックします。
12. 「閉じる」 ボタンをクリックしてダイアログを閉じます。

プラットフォーム管理のプロパティおよびタスク

この節では、各 Sun SPARC Enterprise Mx000 サーバープラットフォーム管理オブジェクトのテーブルに一覧表示されるプロパティについて説明します。プロパティの値が -- (2 個のダッシュ) または -1 の場合は、プラットフォーム管理モジュールがそのプロパティのデータを取得できないことを示します。

テーブルには、関係するアラーム規則の参照が含まれます。アラーム規則の詳細については、[第 6 章](#)を参照してください。

この節では、各テーブルからターゲットシステムのアクティブ管理に使用できるポップアップメニューについても説明します。ポップアップメニューの使用方法については、[40 ページ](#)の「[プラットフォーム管理モジュールでのアクティブ管理の実行](#)」を参照してください。

この節では次のテーブルについて説明します。

- [54 ページ](#)の「システム」
- プラットフォームビューテーブル
 - [55 ページ](#)の「CPU/メモリーユニットボード」
 - [57 ページ](#)の「CPU モジュール」
 - [58 ページ](#)の「メモリーボード」
 - [59 ページ](#)の「メモリー DIMM」
 - [60 ページ](#)の「I/O ユニットボード」
 - [61 ページ](#)の「PCI スロット」
 - [62 ページ](#)の「システムボード」
 - [63 ページ](#)の「拡張システムボード」

- 66 ページの「論理システムボード」
- 66 ページの「システムコンポーネント」
- 67 ページの「環境監視」
- 68 ページの「ドメイン」
- 外部 I/O テーブル
 - 70 ページの「外部 I/O 拡張ユニットシャーシ」
 - 71 ページの「I/O ポート」
 - 72 ページの「リンクカード」
 - 73 ページの「外部 I/O 拡張ユニットの電源装置とファン」
 - 74 ページの「外部 I/O 拡張ユニットセンサー」
- ドメインビューテーブル
 - 75 ページの「ドメイン情報」
 - 76 ページの「システムボード」
 - 77 ページの「拡張システムボード」
 - 78 ページの「論理システムボード」

システム

表 3-1 は、ターゲットサーバーのシステムプロパティの概要を示します。

表 3-1 プラットフォーム管理: 「システム」 テーブル

プロパティ	アラーム規則 (ある場合)	説明
ノード名		ノード名。値は <code>system</code> です。
プラットフォーム名		XSCF ファームウェアの設定時にこのサーバーに割り当てられた名前。 例: <code>chiron</code> 、 <code>balon</code>
プラットフォームタイプ		プラットフォームタイプ ID。例: <code>Sun SPARC Enterprise M4000</code>
シリアル番号		システムのシリアル番号。 例: <code>FJ890023-020</code>
CPU の数		システム内の CPU チップの数。 例: <code>1</code> 、 <code>2</code> ... <code>64</code>
記憶容量		システム内の総メモリー容量 (G バイト単位)。
ドメインの数		システム内のドメインの数。最大値はプラットフォームによって変わります。

表 3-1 プラットフォーム管理: 「システム」 テーブル (続き)

プロパティ	アラーム規則 (ある場合)	説明
電源 LED		主電源のオンまたはオフを表します。 可能な値: ON、OFF、BLINKING、UNKNOWN。
作動可能 LED		マシンがオンラインかどうかを表します。 可能な値: ON、OFF、BLINKING、UNKNOWN。
チェック LED	rLEDState	保守が必要かどうかを表します。可能な値: ON、OFF、BLINKING、UNKNOWN。
システム状態	rErrorStatus	総合的なシステムの状態。可能な値: NORMAL、DEGRADED、FAULTED、CHANGE、UNKNOWN。
ファームウェア状態	rErrorStatus	ファームウェアの状態。可能な値: NORMAL、DEGRADED、FAULTED、CHANGE、UNKNOWN。
ハードウェア状態	rErrorStatus	ハードウェアの状態。可能な値: NORMAL、DEGRADED、FAULTED、CHANGE、UNKNOWN。
モードスイッチ状態		モードスイッチの状態。可能な値: LOCKED、SERVICE、UNKNOWN。

プラットフォームビューテーブル

この節のテーブルは、プラットフォーム管理モジュールのプラットフォームビューに表示されます。外部 IO セクションのテーブルについては、[69 ページの「外部 I/O」](#)を参照してください。

CPU/メモリーユニットボード

「CMU ボード」テーブルには、システムのすべての CPU/メモリーユニット (CMU) ボードが表示されます。エントリの数は、Sun SPARC Enterprise Mx000 サーバーの種類によって変わります。[表 3-2](#)に、CMU ボードごとに表示される情報を示します。このテーブルの情報は、「ハードウェア物理/論理表示」でも使用できます。

表 3-2 プラットフォーム管理: 「CMU ボード」 テーブル

プロパティ	アラーム規則 (ある場合)	説明:
名前		ボードの種類および ID。例: CMU#00、PCMU#01
ボード名		CMU ボードの名前。
ボードの状態		CMU ボードの状態。可能な値: UNMOUNTED、STOP、INIT、NOT CONFIGURED、IDLE、RUN、DECONFIGURED、CHANGE、UNKNOWN
XSB モード		「Uni-XSB」または「Quad-XSB」のモードを表します。可能な値: 1、4
ドメイン割り当て		CMU が割り当てられたドメイン。XSB モードによっては、1 より大きい値も可能です。例: 0、1、2、3
COD 有効		CMU ボードが COD ボードかどうかを表します。可能な値: ENABLED、DISABLED
エラーステータス	rErrorStatus	エラーステータス。可能な値: NORMAL、DEGRADED、FAULTED、CHANGE、UNKNOWN。
パーツ番号		FRU のパーツ番号。
シリアル番号		FRU のシリアル番号。
製品名		FRU の製品名。例: CMU。

アクティブ管理は「CMU ボード」テーブルから使用でき、ハイエンドサーバーでのみサポートされます。このテーブルのポップアップメニュー項目については、表 3-3 で説明します。

注 - 「中止」 ボタンをクリックしても無視されます。

表 3-3 プラットフォーム管理: 「CMU ボード」 テーブルのポップアップメニュー

メニュー項目	同等のコマンド	説明
CMU の追加...	addfru	CMU を追加します。CMU の場所が空いている場合にのみ表示されます。fieldeng 特権が必要です。
CMU の削除...	deletefru	CMU を削除します。CMU の「ボードの状態」プロパティの値が RUN でない場合にのみ表示されます。fieldeng 特権が必要です。
CMU の交換...	replacefru	CMU を交換します。CMU の「ボードの状態」プロパティの値が RUN でない場合にのみ表示されます。fieldeng 特権が必要です。

CPU モジュール

「CPU モジュール (CPUM)」テーブルには、システム内のすべての CPUM が表示されます。各 CPU/メモリーユニットには最大 4 つの CPUM が含まれます。表 3-4 に、CPUM ごとに表示される情報を示します。このテーブルの情報は、「ハードウェア物理/論理表示」でも使用できます。

表 3-4 プラットフォーム管理: 「CPU モジュール」テーブル

プロパティ	アラーム規則 (ある場合)	説明
名前		CMU と CPU の種類および ID の連結。 例: CMU#00/CPUM#00、 PCMU#00/CPUM#01
CPU チップ番号		CPU のチップ番号。例: CPUCHIP#00
親 CMU		この CPU モジュールが属する CMU。 例: CMU#00、PCMU#01
CPU の種類		CPU の種類。例: CPUM_A -12-2277。
CPU の状態		CPU の状態。可能な値: UNMOUNTED、 STOP、INIT、NOT CONFIGURED、 IDLE、RUN、DECONFIGURED、 CHANGE、UNKNOWN。
クロック周波数		CPU クロックの周波数。例: 2150、2277
エラーステータス	rErrorStatus	エラーステータス。可能な値: NORMAL、 DEGRADED、FAULTED、CHANGE、 UNKNOWN。
パーツ番号		FRU のパーツ番号。
シリアル番号		FRU のシリアル番号。
製品名		FRU の製品名。例: CPUM_A

メモリーボード

「メモリーボード」テーブルには、ミッドレンジサーバーのすべてのメモリーボードが表示されます。表 3-5 に、メモリーボードごとに表示される情報を示します。注: このテーブルには、ミッドレンジサーバーの情報のみが生成されます。このテーブルの情報は、「ハードウェア物理/論理表示」でも使用できます。

表 3-5 プラットフォーム管理: 「メモリーボード」テーブル

プロパティ	アラーム規則 (ある場合)	説明
名前		ボードの種類および ID。 例: PCMU#00/MEMB#00、PCMU#00/ MEMB#01
親 CMU		このメモリーボードが属する CMU。 例: PCMU#00、PCMU#01
記憶容量		メモリーボード上のすべての DIMM の合計記憶 容量 (G バイト単位)。例: 8
状態		メモリーボードの状態。可能な値: UNMOUNTED、STOP、INIT、NOT CONFIGURED、IDLE、RUN、 DECONFIGURED、CHANGE、UNKNOWN。
エラーステータス	rErrorStatus	エラーステータス。可能な値: NORMAL、 DEGRADED、FAULTED、CHANGE、 UNKNOWN。
パーツ番号		FRU のパーツ番号。
シリアル番号		FRU のシリアル番号。
製品名		FRU の製品名。例: FFMEMB

メモリー DIMM

「メモリー DIMM」テーブルには、サーバーのすべての DIMM モジュールが表示されます。表 3-6 に、エントリごとに表示される情報を示します。このテーブルの情報は、「ハードウェア物理/論理表示」でも使用できます。

表 3-6 プラットフォーム管理: 「メモリー DIMM」テーブル

プロパティ	アラーム規則 (ある場合)	説明
名前		CMU と MEM の種類および ID の連結。例: CMU#00/MEM#00、CMU#00/MEM#01
メモリーの名前		このメモリーの実際の命名法固有の名前。 例: 02A、13B
親 CMU		この DIMM モジュールが属する CMU。 例: CMU#00、CMU#01
記憶容量		メモリー DIMM のサイズ (G バイト単位)。 例: 2、4
メモリーの状態		メモリー DIMM モジュールの状態。可能な値: UNMOUNTED、STOP、INIT、NOT CONFIGURED、IDLE、RUN、 DECONFIGURED、CHANGE、UNKNOWN。
エラーステータス	rErrorStatus	エラーステータス。可能な値: NORMAL、 DEGRADED、FAULTED、CHANGE、 UNKNOWN。
パーツ番号		FRU のパーツ番号。
シリアル番号		FRU のシリアル番号。
製品名		FRU の製品名。

I/O ユニットボード

「IOU ボード」テーブルには、サーバーのすべての I/O ユニットボードが表示されます。表 3-7 に、エントリごとに表示される情報を示します。このテーブルの情報は、「ハードウェア物理/論理表示」でも使用できます。

表 3-7 プラットフォーム管理: 「IOU ボード」テーブル

プロパティ	アラーム規則 (ある場合)	説明
名前		ボードの種類および ID。例: IOU#00、IOU#01
ボード名		I/O ボードの名前。
ボードの状態		I/O ボードの状態。可能な値: UNMOUNTED、STOP、INIT、NOT CONFIGURED、IDLE、RUN、DECONFIGURED、CHANGE、UNKNOWN。
XSB モード		「Uni-XSB」または「Quad-XSB」のモードを表します。可能な値: 1、4
ドメイン割り当て		IOU が割り当てられたドメイン。XSB モードによっては、1 より大きい値も可能です。例: 0、1、2、3
エラーステータス	rErrorStatus	エラーステータス。例: NORMAL、DEGRADED、FAULTED、CHANGE、UNKNOWN。
パーツ番号		FRU のパーツ番号。
シリアル番号		FRU のシリアル番号。
製品名		FRU の製品名。例: IOU。

アクティブ管理は「IOU ボード」テーブルから使用できます。「IOU の追加」、
「IOU の削除」、および「IOU の交換」メニュー項目は、ハイエンドサーバーでのみサポートされます。このテーブルのポップアップメニュー項目については、表 3-8
で説明します。

注 - 「中止」ボタンをクリックしても無視されます。

表 3-8 プラットフォーム管理: 「IOU ボード」 テーブルのポップアップメニュー

メニュー項目	同等のコマンド	説明
IOU の追加...	addfru	I/O ユニットを追加します。IOU スロットの場所が空いている場合にのみ表示されます。fieldeng 特権が必要です。
IOU の削除...	deletefru	I/O ユニットを削除します。IOU の「ボードの状態」プロパティの値が RUN でない場合にのみ表示されます。fieldeng 特権が必要です。
IOU の交換...	replacefru	I/O ユニットを交換します。IOU の「ボードの状態」プロパティの値が RUN でない場合にのみ表示されます。fieldeng 特権が必要です。

PCI スロット

「PCI スロット」テーブルには、すべての占有された PCI スロットが表示されます。表 3-9 に、エントリごとに表示される情報を示します。注: このテーブルの情報は、「ハードウェア物理/論理表示」でも使用できます。

表 3-9 プラットフォーム管理: 「PCI スロット」 テーブル

プロパティ	アラーム規則 (ある場合)	説明
名前		IOU と PCI の種類および ID の連結。 例: IOU#00/PCI#00、IOU#01/PCI#01
親 IOU		この PCI スロットが属する IOU。 例: IOU#00、IOU#01
PCI の状態		PCI スロットの状態。可能な値: UNMOUNTED、STOP、INIT、NOT CONFIGURED、IDLE、RUN、 DECONFIGURED、CHANGE、UNKNOWN。
エラーステータス	rErrorStatus	エラーステータス。例: NORMAL、 DEGRADED、FAULTED、CHANGE、 UNKNOWN。
パーツ番号		FRU のパーツ番号。
シリアル番号		FRU のシリアル番号。
製品名		FRU の製品名。

システムボード

「システムボード」テーブルには、システム内のすべてのシステムボードが表示されます。表 3-10 に、エン트리ごとに表示される情報を示します。

表 3-10 プラットフォーム管理: 「システムボード」テーブル

プロパティ	アラーム規則 (ある場合)	説明
名前		一意の名前。例: SB#00、SB#01
ボードの状態		ボードの DR 状態。例: UNMOUNTED、STOP、INIT、NOT CONFIGURED、IDLE、RUN、DECONFIGURED、CHANGE、UNKNOWN。
XSB モード		「Uni-XSB」または「Quad-XSB」のモードを表します。可能な値: 1、4
ドメイン割り当て		ボードが属するドメインを表示します。XPAR モードがオフの場合の最大値は 1 です。XPAR モードがオンの場合、1 より大きい値も可能です。例: 0、1、2、...、23、--
CMU ボード		システムボードの一部になっている CMU の名前 (種類および ID)。例: CMU#00、CMU#01
CMU エラーステータス	rErrorStatus	システムボードの一部になっている CMU のエラーステータス。例: NORMAL、DEGRADED、FAULTED、CHANGE、UNKNOWN。
IOU ボード		システムボードの一部になっている I/O ユニットボード。システムボードを構成する CMU ボードと IOU ボードの間には 1 対 1 の関係があります。例: IOU#01、IOU#02
IOU エラーステータス	rErrorStatus	IOU のエラーステータス。例: NORMAL、DEGRADED、FAULTED、CHANGE、UNKNOWN。

アクティブ管理は「システムボード」テーブルから使用できます。「SB の追加」、
「SB の削除」、および「SB の交換」メニュー項目は、ハイエンドサーバーでのみサ
ポートされます。このテーブルのポップアップメニュー項目については、表 3-11
で説明します。

注 - 「中止」ボタンをクリックしても無視されます。

表 3-11 プラットフォーム管理: 「システムボード」 テーブルのポップアップメニュー

メニュー項目	同等のコマンド	説明
SB の追加...	addfru	システムボードを追加します。システムボードの場所 が空いている場合にものみ表示されます。fieldeng 特権が必要です。
SB の削除...	deletefru	システムボードを削除します。「システムボードの 状態」プロパティの値が RUN でない場合にものみ表示 されます。fieldeng 特権が必要です。
SB の交換...	replacefru	システムボードを交換します。「システムボードの状 態」プロパティの値が RUN でない場合にものみ表示さ れます。fieldeng 特権が必要です。
SB モードの 設定...	setupfru	SB モード (x1 または x4) を設定します。
SB のテ スト...	testsb	SB の初期診断を実行します。

拡張システムボード

「XSB」テーブルには、Sun SPARC Enterprise Mx000 サーバシステム内のすべての拡張システムボード (XSB) が表示されます。表 3-12 に、エントリごとに表示される情報を示します。

表 3-12 プラットフォーム管理: 「XSB」 テーブル

プロパティ	アラーム規則 (ある場合)	説明
ID		XSB の識別子。例: 00-0、02-3
状態		XSB の現在の状態。例: UNMOUNTED、STOP、 INIT、NOT CONFIGURED、IDLE、RUN、 DECONFIGURED、CHANGE、UNKNOWN。
エラーステータス	rErrorStatus	XSB のエラーステータス。例: NORMAL、 DEGRADED、FAULTED、CHANGE、 UNKNOWN。
ドメイン ID		XSB が属するドメインの識別子。例: 0、1

表 3-12 プラットフォーム管理: 「XSB」 テーブル (続き)

プロパティ	アラーム規則 (ある場合)	説明
DR ステータス		XSB の DR ステータス。可能な値: CONFIGURED、UNCONFIGURED、 WAITING、DISCONNECTED、UNKNOWN。 「XSB の追加」などの DR 操作のあとの値 WAITING は、ステータスがまだ CONFIGURED になっていないことを表します。
電源		XSB の現在の電源設定。例: OFF、ON
テスト	rTestState	XSB のテストの結果を表示します。可能な値: PASSED、FAILED、UNKNOWN、 UNMOUNTED、TESTING
割り当て		XSB が割り当てられているかどうかを示しま す。可能な値: ASSIGNED、AVAILABLE、 UNAVAILABLE。
接続		XSB が接続されているかどうかを示します。 例: CONNECTED、DISCONNECTED
設定		XSB が設定されているかどうかを示します。 例: CONFIGURED、UNCONFIGURED

アクティブ管理は「XSB」テーブルから使用できます。このテーブルのポップアップメニュー項目については、[表 3-13](#) で説明します。

注 - 「中止」 ボタンをクリックしても無視されます。

表 3-13 プラットフォーム管理: 「XSB」 テーブルのポップアップメニュー

メニュー項目	同等のコマンド	説明
XSB の追加...	addboard	選択した XSB をドメインに追加します。 「XSB の追加」のあとの状態: <ul style="list-style-type: none"> • ASSIGNED - XSB は指定されたドメインに割り当てられています。割り当てられたシステムボードは指定されたドメインのために予約され、ほかのドメインを割り込ませたり割り当てたりすることはできません。割り当て後に、再起動するか、CONFIGURED オプションを付けて「XSB の追加」操作を実行することにより、システムボードが追加されます。 • CONFIGURED - XSB は指定されたドメイン設定に追加されています。追加後は、オペレーティングシステムから XSB にアクセスできます。

表 3-13 プラットフォーム管理: 「XSB」 テーブルのポップアップメニュー (続き)

メニュー項目	同等のコマンド	説明
XSB の削除...	deleteboard	<p>選択した XSB をドメインから削除します。「割り当て」の値が UNAVAILABLE の場合は使用できません。</p> <p>「XSB の削除」のあ</p> <p>UNASSIGNED - システムボードをドメイン設定から完全に切り離し、システムボードプールに配置します。システムボードプールに配置されたあとは、システムボードをほかのドメインに追加したり割り当てたりすることができます。</p> <p>DISCONNECTED - システムボードをドメイン設定から切り離し、ステータスを ASSIGNED に変更します。システムボードはまだドメインに割り当てられているため、再起動するか「XSB の追加」ダイアログを使用するだけで同じドメイン設定にもう一度追加することができます。</p> <p>RESERVED - システムボードをドメイン設定からただちに切り離すのは保留して、切り離しの予約のみを実行します。予約後にドメインの電源を切断すると切り離され、システムボードプールに配置されます。</p>
XSB の移動...	moveboard	<p>選択した XSB を新しいドメインに移動します。「割り当て」の値が UNAVAILABLE の場合は使用できません。</p> <p>「XSB の移動」のあとの状態:</p> <p>ASSIGNED - XSB を宛先ドメイン設定に割り当てます。割り当てられた XSB は指定されたドメインのために予約され、ほかのドメインに追加したり割り当てたりすることはできません。割り当て後に、再起動するか、CONFIGURED オプションを付けて「XSB の追加」ダイアログを使用することにより、XSB がドメインに追加されます。</p> <p>CONFIGURED - XSB を宛先ドメイン設定に追加します。追加された XSB は、オペレーティングシステムからアクセスできます。</p> <p>RESERVED - XSB をただちにドメイン設定から移動する代わりに、XSB の移動を予約します。予約後にドメインの電源を切断すると XSB がドメインから切り離され、新しいドメインの電源を入れると宛先ドメインに追加されます。</p>

論理システムボード

「論理システムボード (LSB)」テーブルにはシステム内のすべての LSB が表示されず、各ドメインには 16 個の LSB が含まれます。そのため、テーブルの行数は可能なドメインの数の 16 倍になります。表 3-14 に、エントリごとに表示される情報を示します。

表 3-14 プラットフォーム管理: 「LSB」テーブル

プロパティ	アラーム規則 (ある場合)	説明
ドメイン ID		ドメインの識別子。値の範囲は 0-23 です。例: 0、1
LSB ID		LSB の識別子。例: 0、10、15
XSB ID		この LSB に関連付けられた XSB の識別子。 例: 01-2、00-1
メモリーなし		ドメイン上のメモリーの使用を省略するかどうかを示します。可能な値: ON、OFF。
IO なし		ドメイン上の I/O デバイスの使用を省略するかどうかを示します。可能な値: ON、OFF。
浮動ボード		ボードの優先順位を、ほかのボードに対して浮動ボードとして設定するかどうかを示します。 可能な値: ON、OFF。

システムコンポーネント

「システムコンポーネント」テーブルには、共通プロパティを共有し、表 3-1 - 表 3-14 にリストされていない現場交換可能ユニット (Field Replaceable Unit、FRU) を表示します。このテーブルには、次のシステムコンポーネントが表示されます。

- 電源
- ファントレー
- クロスバーボードユニット
- クロックボード (ハイエンドサーバーのみ)
- XSCF ボード
- 背面パネル (ハイエンドサーバーのみ)

表 3-15 に、エントリごとに表示される情報を示します。

表 3-15 プラットフォーム管理: 「システムコンポーネント」 テーブル

プロパティ	アラーム規則 (ある場合)	説明
名前		コンポーネントの種類および ID。 例: PSU#00、XSCFA#01
状態		コンポーネントの状態。例: UNMOUNTED、STOP、INIT、NOT CONFIGURED、IDLE、RUN、DECONFIGURED、CHANGE、UNKNOWN。
エラーステータス	rErrorStatus	エラーステータス。例: NORMAL、DEGRADED、FAULTED、CHANGE、UNKNOWN。
パーツ番号		FRU のパーツ番号。
シリアル番号		FRU のシリアル番号。
製品名		FRU の製品名。

環境監視

「環境監視」テーブルには、テンプレート、電流、および電圧に関する環境プローブ情報が表示されます。表 3-16 に、エントリごとに表示される情報を示します。

表 3-16 プラットフォーム管理: 「環境監視」 テーブル

プロパティ	アラーム規則 (ある場合)	説明
名前		環境プローブの位置。例: CMU#00、CMU#00/CPUM#00
説明		環境プローブの説明。例: CPUM CHIP 0、1.2V
値		センサーで測定した現在値。
単位		「値」の値を測定する単位。例: mV、C (度)
状態	rValidStatus	環境プローブのステータス。可能な値: INVALID、VALID、UNKNOWN。
値のステータス	rErrorStatus	センサーで測定した現在値の状態。可能な値: NORMAL、DEGRADED、FAULTED、CHANGE、UNKNOWN。

ドメイン

「ドメイン」テーブルには、すべての既存のドメインに関する情報が表示されます。[表 3-17](#) に、システム内のドメインごとに表示される情報を示します。

表 3-17 プラットフォーム管理: 「ドメイン」 テーブル

プロパティ	アラーム規則 (ある場合)	説明
ドメイン ID		ドメインの一意の識別子。例: 0、1、2 ... 31
ドメイン名		ドメインの名前。例: col2-45、tokyo32
OS リリース		オペレーティングシステムのリリースの識別子。例: 5.10
OS バージョン		オペレーティングシステムのバージョンの識別子。例: Generic_118833-29
CPU の数		ドメイン内の CPU ストランドの数。CPU チップごとに 4 つのストランドがあります。例: 1、2 ... 64
記憶容量		ドメイン内のメモリー容量 (G バイト単位)。例: 0、64
状態	rDomainStatus	ドメインのステータス。可能な値: POWER OFF、PANIC、SHUTDOWN、INITIALIZE、BOOT、RUNNING、PROM、CHANGE、UNKNOWN。
エラーステータス	rErrorStatus	エラーステータス。例: NORMAL、DEGRADED、FAULTED、CHANGE、UNKNOWN。
構成方針		初期ハードウェア診断時にハードウェアエラーが検出された場合の性能劣化領域に対する構成方針。例: COMPONENT、XSB、SYSTEM

アクティブ管理は「ドメイン」テーブルから使用できます。このテーブルのポップアップメニュー項目については、表 3-18 で説明します。

注 - 「中止」ボタンをクリックしても無視されます。

表 3-18 プラットフォーム管理: 「ドメイン」テーブルのポップアップメニュー

メニュー項目	同等のコマンド	説明
LSB のクリア...	setdcl	ドメインに対するドメインコンポーネントリストの LSB 構成値をクリアします。
LSB 構成の設定...	setdcl	ドメインに対するドメインコンポーネントリストの LSB 構成値を設定します。
LSB への XSB の割り当て...	setdcl	ドメインに対するドメインコンポーネントリストの LSB に XSB を割り当てます。
ドメインの電源を入れる...	poweron	ドメインの電源を入れます。ドメインの「状態」の値が次のいずれかの場合は使用できません。PANIC、SHUTDOWN、INITIALIZE、BOOT、RUNNING、PROM、CHANGE、UNKNOWN。
すべてのドメインの電源を入れる...	poweron	電源切断状態のすべてのドメインの電源を入れます。
ドメインの電源を切る...	poweroff	ドメインの電源を切ります。ドメインの「状態」の値が POWER OFF の場合は使用できません。
すべてのドメインの電源を切る...	poweroff	電源投入状態のすべてのドメインの電源を切ります。
ドメインのリセット...	reset	ドメインをリセットします。

外部 I/O

この節のテーブルは、プラットフォーム管理モジュールの外部 IO のセクションに表示されます。このセクションは、プラットフォームビューのセクション内で階層的に入れ子になっています。システムに外部 I/O 拡張ユニットをインストールしていなければ、外部 I/O 拡張ユニットに関する情報は表示されません。

外部 I/O 拡張ユニットシャーシ

「IO ボックスシャーシ」テーブルには、使用可能な外部 I/O 拡張ユニットに関する一般的な情報が表示されます。表 3-19 に、システム内の外部 I/O 拡張ユニットごとに表示される情報を示します。

表 3-19 プラットフォーム管理: 「IO ボックスシャーシ」テーブル

プロパティ	アラーム規則 (ある場合)	説明
ID		外部 I/O 拡張ユニットの一意の識別子。 例: XCX01U
ロケータ LED		I/O 外部拡張ユニットを視認するために使われるロケータ LED。例: ON、OFF。
温度超過 LED	rIoBoxLEDState	温度が高すぎないかどうかを示す LED。可能な値: OFF、BLINK FAST、BLINK SLOW、FEEDBACK FLASH、ON、STANDBY BLINK、UNKNOWN
保守要求 LED	rIoBoxLEDState	保守が必要かどうかを表す LED。可能な値: OFF、BLINK FAST、BLINK SLOW、FEEDBACK FLASH、ON、STANDBY BLINK、UNKNOWN
アクティブ LED		I/O の活動を示す LED。可能な値: OFF、BLINK FAST、BLINK SLOW、FEEDBACK FLASH、ON、STANDBY BLINK、UNKNOWN
パーツ番号		FRU のパーツ番号。
シリアル番号		FRU のシリアル番号。
ダッシュレベル		ダッシュレベル。

アクティブ管理は「IO ボックスシャーシ」テーブルから使用できます。このテーブルのポップアップメニュー項目については、表 3-20 で説明します。

表 3-20 プラットフォーム管理: 「IO ボックスシャーシ」テーブルのポップアップメニュー

メニュー項目	同等のコマンド	説明
IO ボックス設定	ioxadm	ロケータ LED の状態を変更します。
ロケータ LED...	locator {on off} target	

I/O ポート

「IO ポート」テーブルには、システム内のすべての I/O ポートに関する一般的な情報が表示されます。表 3-21 に、システム内の I/O ポートごとに表示される情報を示します。

表 3-21 プラットフォーム管理: 「IO ポート」テーブル

プロパティ	アラーム規則 (ある場合)	説明
ボックス ID		外部 I/O 拡張ユニットの一意の識別子。 例: XCX01U
ポート ID		I/O ポートの識別子。例: 1
ポートの位置		I/O ポートが外部 I/O 拡張ユニットのどちら側に常駐しているかを示します。可能な値: LEFT、RIGHT
ポートタイプ		ボードの種類。例: PCIE、PCIX
取り外し可能 LED	rOKtoRemoveLED	ポートの取り外しが可能かどうかを示す LED。 例: OFF、ON
保守要求 LED	rIoBoxLEDState	保守が必要かどうかを表します。例: ON、OFF
アクティブ LED		I/O の活動を示す LED。例: ON、OFF、 STANDBY BLINK
パーツ番号		FRU のパーツ番号。
シリアル番号		FRU のシリアル番号。
ダッシュレベル		ダッシュレベル。

アクティブ管理は「IO ポート」テーブルから使用できます。このテーブルのポップアップメニュー項目については、表 3-22 で説明します。

表 3-22 プラットフォーム管理: 「IO ポート」テーブルのポップアップメニュー

メニュー項目	同等のコマンド	説明
IO ポートの電源を入れる...	<code>ioxadm poweron target</code>	I/O ポートの電源を入れます。「取り外し可能 LED」の値が OFF の場合は使用できません。
IO ポートの電源を切る...	<code>ioxadm [-f] poweroff target</code>	I/O ポートの電源を切り、ホストシャーシの取り外し可能 LED を点灯します。PCI スロットと I/O ポートのコンポーネントの電源が切れます。ドメインに含まれる I/O ポートは「強制オプションを使用する」をオンにした場合を除き、電源を切ることはできません。このオプションを選択すると、ドメインがクラッシュする可能性があります。「取り外し可能 LED」の値が ON の場合は使用できません。
IO ポート設定 ロケータ LED...	<code>ioxadm locator {-off -on} target</code>	ロケータ LED の状態を変更します。

リンクカード

「リンクカード」テーブルには、システム内のすべてのリンクカードに関する一般的な情報が表示されます。表 3-23 に、システム内のリンクカードごとに表示される情報を示します。

表 3-23 プラットフォーム管理: 「リンクカード」テーブル

プロパティ	アラーム規則 (ある場合)	説明
ボックス ID		外部 I/O 拡張ユニットの一意の識別子。 例: XCX01U
ポート ID		I/O ポートの識別子
リンクカード ID		リンクカードの識別子
データ LED	rLinkCardLEDState	データ LED。可能な値: ON、OFF、 STANDBY BLINK、BLINK SLOW、 BLINK FAST、FEEDBACK FLASH、 UNKNOWN
管理 LED	rLinkCardLEDState	管理 LED。可能な値: ON、OFF、 STANDBY BLINK、BLINK SLOW、 BLINK FAST、FEEDBACK FLASH、 UNKNOWN
ダウンリンクカードの位置		ダウンリンクカードの位置。
ダウンリンクカード ID		ダウンリンクカードの識別子。
パーツ番号		FRU のパーツ番号。
シリアル番号		FRU のシリアル番号。
ダッシュレベル		ダッシュレベル。

外部 I/O 拡張ユニットの電源装置とファン

「IO ボックス電源装置およびファン」テーブルには、外部 I/O 拡張ユニットのすべての電源装置とファントレーに関する情報が表示されます。表 3-24 に、システム内の外部 I/O 拡張ユニットごとに表示される情報を示します。

表 3-24 プラットフォーム管理: 「IO ボックス電源装置およびファン」テーブル

プロパティ	アラーム規則 (ある場合)	説明
ボックス ID		外部 I/O 拡張ユニットの一意的識別子。 例: XCX01U
ID		I/O ポートの識別子。
位置		外部 I/O 拡張ユニットの電源装置とファンの位置。
取り外し可能 LED	rOKtoRemoveLED	取り外し可能 LED について説明します。 例: ON、OFF、UNKNOWN
保守要求 LED	rIoBoxLEDState	保守要求 LED について説明します。例: ON、OFF、UNKNOWN
AC 電源 LED		AC 電源 LED。
DC 電源 LED		DC 電源 LED。
パーツ番号		FRU のパーツ番号。
シリアル番号		FRU のシリアル番号。
ダッシュレベル		ダッシュレベル。

アクティブ管理は「IO ボックス電源装置およびファン」テーブルから使用できます。このテーブルのポップアップメニュー項目については、表 3-25 で説明します。

表 3-25 プラットフォーム管理: 「IO ボックス電源装置およびファン」テーブルのポップアップメニュー

メニュー項目	同等のコマンド	説明
IO ボックス PSU の電源を入れる...	<code>ioxadm poweron target</code>	前にスリープ状態に置かれていたか、取り外し可能とマークされていた電源装置の電源を入れます。「取り外し可能 LED」の値が OFF の場合は使用できません。
IO ボックス PSU の電源を切る...	<code>ioxadm [-f] poweroff target</code>	I/O ポートの電源を切り、取り外し可能 LED を点灯します。電源装置の電源が切れているにもかかわらず、対応するファンが動作を継続する場合があります。「取り外し可能 LED」の値が ON の場合は使用できません。 注: 両方の PSU が同じ外部 I/O 拡張ユニットから同時に電源を切られた場合、物理的にユニットの電源を入れなければ、もう一度そのユニットの電源を入れることはできません。ユニットから孤立した PSU を削除するには、「強制オプションを使用する」をオンにします。

表 3-25 プラットフォーム管理: 「IO ボックス電源装置およびファン」 テーブルのポップアップメニュー

メニュー項目	同等のコマンド	説明
IO ボックス	ioxadm	ロケータ LED の状態を変更します。
PSU 設定ロケータ	locator {-off -on}	
LED...	target	

外部 I/O 拡張ユニットセンサー

「IO ボックスセンサー」テーブルには、外部 I/O 拡張ユニットのすべてのセンサーに関する情報が表示されます。表 3-26 に、システム内の外部 I/O 拡張ユニットセンサーごとに表示される情報を示します。

表 3-26 プラットフォーム管理: 「IO ボックスセンサー」 テーブル

プロパティ	アラーム規則 (ある場合)	説明
ボックス ID		外部 I/O 拡張ユニットの一意の識別子。 例: XCX01U
センサー ID		センサーの識別子。
値	rIoBoxSensor	センサーで測定した電流値。
単位		Value の値を測定する単位。
有効なアラーム		アラームを送出するために監視する値を示します。可能な値: MIN、MAX、BOTH、NONE。
最小アラームしきい値		この最小しきい値未満の値を検出した場合のアラーム条件を示します。「値」プロパティのアラーム規則で使われます。
最大アラームしきい値		この最大しきい値を超える値を検出した場合のアラーム条件を示します。「値」プロパティのアラーム規則で使われます。

ドメインビュー

システム内のドメインごとに、ドメインビューオブジェクトは、対象ドメインに個別に関連する情報を表示します。各ドメインビューは、「プラットフォームビュー」テーブルで使用可能なテーブルのサブセットを複製します。この節では、特定のドメインのドメインビューの内容について説明します。

ドメイン情報

「ドメイン」テーブルには、ドメインビューの対象ドメインに関する情報が表示されます。表 3-27 に、対象ドメインに対して表示される情報を示します。

表 3-27 ドメインビュー: 「ドメイン」 テーブル

プロパティ	アラーム規則 (ある場合)	説明
ドメイン ID		ドメインの一意の識別子。例: 0、1、2 ... 31
ドメイン名		ドメインの名前。例: col2-45、tokyo32
OS リリース		オペレーティングシステムのリリースの識別子。例: 5.10
OS バージョン		オペレーティングシステムのバージョンの識別子。例: Generic_118833-29
CPU の数		ドメイン内の CPU の数。例: 1、2 ... 64
記憶容量		ドメイン内のメモリー容量 (G バイト単位)。例: 64
状態	rDomainStatus	ドメインのステータス。可能な値: POWER OFF、PANIC、SHUTDOWN、INITIALIZE、BOOT、RUNNING、PROM、CHANGE、UNKNOWN。
エラーステータス	rErrorStatus	エラーステータス。例: NORMAL、DEGRADED、FAULTED、CHANGE、UNKNOWN。
構成方針		構成方針。例: COMPONENT、XSB、SYSTEM

一部のアクティブ管理は、「ドメイン」テーブルのドメインビューから使用できます。このテーブルのポップアップメニュー項目については、表 3-28 で説明します。

表 3-28 ドメインビュー: 「ドメイン」 テーブルのポップアップメニュー

メニュー項目	同等のコマンド	説明
ドメインの電源を切る...	poweroff	ドメインの電源を切ります。ドメインの「状態」プロパティの値が POWER OFF の場合は使用できません。
ドメインの電源を入れる...	poweron	ドメインの電源を入れます。ドメインの「状態」プロパティの値が次のいずれかの場合は使用できません。PANIC、SHUTDOWN、INITIALIZE、BOOT、RUNNING、PROM、CHANGE、UNKNOWN。
ドメインのリセット...	reset	ドメインをリセットします。可能なリセットレベル: <ul style="list-style-type: none">電源投入リセット (Power On Reset、POR) - ドメインシステムをただちにリセットします。要求 (パニックを指示) - ドメイン上のオペレーティングシステムにパニックを指示します。電源切断時、またはシャットダウン時は無視されます。外部起動リセット (Externally Initiated Reset、XIR) - ドメインの CPU をリセットします。

システムボード

「システムボード」テーブルには、ドメインビューの対象ドメイン内のすべてのシステムボードが表示されます。表 3-29 に、エントリごとに表示される情報を示します。

表 3-29 ドメインビュー: 「システムボード」 テーブル

プロパティ	アラーム規則 (ある場合)	説明
名前		一意の名前。例: SB#00、 SB#01
ボードの状態		ボードの DR 状態。例: UNMOUNTED、 STOP、 INIT、 NOT CONFIGURED、 IDLE、 RUN、 DECONFIGURED、 CHANGE、 UNKNOWN。
XSB モード		「Uni-XSB」または「Quad-XSB」のモードを表します。可能な値: 1、 4
ドメイン割り当て		ボードが属するドメインを表示します。XPAR モードがオフの場合の最大値は 1 です。XPAR モードがオンの場合、1 より大きい値も可能です。例: 0、 1、 2、 ...、 23、 SP
CMU ボード		システムボードの一部になっている CMU の名前 (種類および ID)。例: CMU#00、 CMU#01
CMU エラーステータス	rErrorStatus	システムボードの一部になっている CMU のエラーステータス。例: NORMAL、 DEGRADED、 FAULTED、 CHANGE、 UNKNOWN。
IOU ボード		システムボードの一部になっている IOU ボード。システムボードを構成する CMU と IOU の間には 1 対 1 の関係があります。例: IOU#01、 IOU#02
IOU エラーステータス	rErrorStatus	IOU のエラーステータス。例: NORMAL、 DEGRADED、 FAULTED、 CHANGE、 UNKNOWN。

拡張システムボード

「拡張システムボード (XSB)」テーブルには、ドメイン内のすべての XSB が表示されます。表 3-30 に、エントリごとに表示される情報を示します。

表 3-30 ドメインビュー: 「XSB」テーブル

プロパティ	アラーム規則 (ある場合)	説明
ID		XSB の識別子。例: 00-0、01-0、01-1、01-2、01-3
状態		XSB の現在のステータス。例: UNMOUNTED、STOP、INIT、NOT CONFIGURED、IDLE、RUN、DECONFIGURED、CHANGE、UNKNOWN。
エラーステータス	rErrorStatus	XSB のエラーステータス。例: NORMAL、DEGRADED、FAULTED、CHANGE、UNKNOWN。
ドメイン ID		XSB が属するドメインの識別子。例: 0、1
DR ステータス		XSB の DR ステータス。例: CONFIGURED、UNCONFIGURED、UNKNOWN
電源		XSB の現在の電源設定。例: OFF、ON
テスト	rTestState	XSB のテストの結果を示します。可能な値: PASSED、FAILED、UNKNOWN、UNMOUNTED、TESTING
割り当て		XSB が割り当てられているかどうかを示します。例: UNAVAILABLE、AVAILABLE、ASSIGNED。
接続		XSB が接続されているかどうかを示します。例: CONNECTED、DISCONNECTED
設定		XSB が設定されているかどうかを示します。例: CONFIGURED、UNCONFIGURED

論理システムボード

「論理システムボード (LSB)」テーブルには、ドメインビューの対象ドメイン内の 16 枚の LSB が表示されます。表 3-31 に、エントリごとに表示される情報を示します。

表 3-31 ドメインビュー: 「LSB」テーブル

プロパティ	アラーム規則 (ある場合)	説明
ドメイン ID		ドメインの識別子。値の範囲は 0 - 23 です。 例: 0、1
LSB ID		LSB の識別子。例: 0、9、15
XSB ID		この LSB に関連付けられた XSB の識別子。 例: 00-3、01-2
メモリーなし		ドメイン上のメモリーの使用を省略するかどうかを示します。可能な値: ON、OFF。
IO なし		ドメイン上の I/O デバイスの使用を省略するかどうかを示します。可能な値: ON、OFF。
浮動ボード		ボードの優先順位を、ほかのボードに対して浮動ボードとして設定するかどうかを示します。可能な値: ON、OFF。

「ハードウェア」タブについて

プラットフォームの「詳細」ウィンドウでは、「ハードウェア」タブから 2 種類の表示にアクセスできます。

- 物理表示
- 論理表示

物理表示

物理表示は、Sun SPARC Enterprise Mx000 サーバーをフォトリアリスティックに表示します。物理表示は、シャーシ内で視認可能なコンポーネントだけを表示します。シャーシ内で視認できないデバイスの情報を表示するには、論理表示またはモジュールブラウザ表示を確認します。

論理表示

論理表示は、対象エンティティ内のボードとコンポーネントを階層表示します。シャーシ内で物理的に視認できるボードとコンポーネントしか表示しない物理表示とは異なり、論理表示はすべてのボードとコンポーネントを表示します。

「ハードウェア」タブの表示へのアクセス

▼ 物理表示にアクセスする

プラットフォームのフォトリアリスティックな表示にアクセスするには、以下の操作を実行します。

1. プラットフォームの「詳細」ウィンドウを開きます。
2. 「ハードウェア」タブをクリックします。
3. 「表示」プルダウンメニューで、「物理表示」の下のプラットフォームを選択します。
4. 「現表示を回転」プルダウンメニューで、「システム」、「正面」と選択して、プラットフォームの正面を表示します。

物理表示の操作の詳細については、『Sun Management Center ユーザーズガイド』を参照してください。

▼ 論理表示にアクセスする

プラットフォームの「論理表示」は、サーバー全体に接続されているすべてのボードとコンポーネントの階層を表示します。プラットフォームの階層表示にアクセスするには、以下の操作を実行します。

1. プラットフォームの「詳細」ウィンドウを開きます。
2. 「ハードウェア」タブをクリックします。
3. 「表示」プルダウンメニューで、「論理表示」の下のプラットフォームを選択します。
4. 「すべて開く」ボタンをクリックし、左の区画のオブジェクトをクリックすると、論理表示が表示されます。

論理表示の操作の詳細については、『Sun Management Center ユーザーズガイド』を参照してください。

第4章

ドメイン管理

この章では、ドメイン管理モジュール Domain Config Reader SPARC Enterprise Mx000 について次の節で説明します。

- [81 ページの「ドメイン管理モジュールについて」](#)
- [82 ページの「ドメイン管理モジュールへのアクセス」](#)
- [83 ページの「ドメイン管理のプロパティ」](#)
 - [83 ページの「システム」](#)
 - [84 ページの「論理システムボード」](#)
 - [85 ページの「PCI カード」](#)
 - [86 ページの「プロセッサ」](#)
 - [87 ページの「メモリーコントローラ」](#)
 - [88 ページの「ディスク装置」](#)
 - [89 ページの「テープデバイス」](#)
 - [89 ページの「ネットワークインタフェース」](#)

ドメイン管理モジュールについて

ドメイン管理モジュールは、Sun SPARC Enterprise Mx000 サーバーのドメインに関する情報を提供します。このモジュールは、モジュール名「Domain Config Reader SPARC Enterprise Mx000」のラベルが付いたアイコンで表されます。

ドメイン管理モジュールへのアクセス

▼ ドメイン管理モジュールにアクセスする

1. プラットフォームの「詳細」ウィンドウに移動します。

メインコンソールウィンドウから、次のいずれかの方法を使用して、対象プラットフォームの「詳細」ウィンドウを開きます。

 - サーバーのアイコンをダブルクリックします。
 - サーバーのアイコンを右クリックして、ポップアップメニューから「詳細」を選択します。
 - サーバーのアイコンを選択して、「ツール」メニューの「詳細」を選択します。

プラットフォームの「詳細」ウィンドウが表示されます。デフォルトでは、「モジュールブラウザ」タブが開きます。
2. ドメイン管理モジュールを展開します。

「詳細」ウィンドウで、「ハードウェア」アイコンを探します。次のいずれかの方法を使用して、アイコンを展開するか開きます。

 - モジュールのアイコンの左側にある展開アイコンを1回クリックします。

「ハードウェア」アイコンが左側の区画に展開されて、「Domain Config Reader SPARC Enterprise Mx000」というラベルの付いたドメイン管理アイコンが表示されます。
 - モジュールのアイコンをダブルクリックします。

「ハードウェア」アイコンが左側の区画に展開されて、ドメイン管理モジュールアイコンが表示されます。右側の区画にもモジュールのアイコンが表示されます。

ドメイン管理モジュールが左の区画に表示され、その内容が右の区画に表示されます。
3. テーブルを参照してドメインを監視します。

テーブルに表示されるプロパティを参照するには、[手順 2](#)で説明されている方法を使用します。

モジュール内のさまざまなテーブルの詳細については、後の参照セクションを参照してください。

ドメイン管理のプロパティ

この節では、Sun SPARC Enterprise Mx000 サーバーの各ドメイン管理オブジェクトのテーブルに一覧表示されるプロパティについて説明します。プロパティの値が -- (2 個のダッシュ) または -1 の場合は、ドメイン管理モジュールがそのプロパティのデータを取得できないことを示します。

この節では次のテーブルについて説明します。

- 83 ページの「システム」
- 84 ページの「論理システムボード」
- 85 ページの「PCI カード」
- 86 ページの「プロセッサ」
- 87 ページの「メモリーコントローラ」
- 88 ページの「ディスク装置」
- 89 ページの「テープデバイス」
- 89 ページの「ネットワークインタフェース」

システム

表 4-1 に、ドメインのシステムプロパティの概要を示します。

表 4-1 ドメイン管理: 「システム」 テーブル

プロパティ	アラーム規則 (ある場合)	説明
Node Name (ノード名)		ノード名。値は <code>system</code> です。
Hostname (ホスト名)		ドメインのホスト名。
Host ID (ホスト ID)		ホストの ID 番号。
Operating System (オペレーティングシステム)		オペレーティングシステム。 例: <code>SunOS5.10</code> 。
OS Version (OS バージョン)		オペレーティングシステムのバージョン。
Architecture (アーキテクチャ)		マシンのアーキテクチャ。 例: <code>sparc</code> 。
Last Update (最終更新日時)		構成情報が最後に更新された日時。

表 4-1 ドメイン管理: 「システム」 テーブル (続き)

プロパティ	アラーム規則 (ある場合)	説明
Total Disks (合計ディスク)		ディスクの総数。
Total Processors (合計プロセッサ)		CPU プロセッサの数。
Total Tape Devices (合計テープデバイス)		テープデバイスの数。

注 - 「ハードウェア」タブでは、「ハードウェア概要」テーブルの「総メモリー容量」フィールドに「NA」(適用外)と表示されます。メモリー DIMM の容量情報については、「メモリーコントローラ」テーブルを参照してください。

論理システムボード

表 4-2 に、ドメインの全論理システムボードのプロパティの概要を示します。

表 4-2 ドメイン管理: 「論理システムボード」 テーブル

プロパティ	アラーム規則 (ある場合)	説明
LSB ID (LSB ID)		FRU ID (スロット ID) を含む論理システムボード ID。
Floating Board (浮動ボード)		LSB が浮動ボードかどうかを示します。可能な値: Yes、No
Processor List (プロセッサリスト)		論理システムボードにあるプロセッサの ID のコンマ区切りリスト。

PCI カード

表 4-3 に、ドメインの全 PCI カードのプロパティの概要を示します。

表 4-3 ドメイン管理: 「PCI カード」 テーブル

プロパティ	アラーム規則 (ある場合)	説明
Card ID (カード ID)		FRU ID (スロット ID) を含む PCI カードの ID。
Device Path (デバイスパス)		デバイスのパス。 ci@0,600000/pci@0/scsi@1。
Device Type (デバイスタイプ)		デバイスのタイプ。例: scsi-2、network。
Device Class (デバイスクラス)		デバイスのクラス。例: Mass Storage Controller (SCSI)、Network Controller (Ethernet)。
Clock Frequency (クロック周波数)		メガヘルツ (MHz) 単位で表されたデバイスのクロック周波数。
名前		PCI カードの名前。例: scsi、network。
Revision ID (リビジョン ID)		カードのリビジョン ID。
Manufacturer (製造元)		カードの製造元。
Vendor ID (ベンダー ID)		ベンダーの ID。例: 4096、5348。
Model (モデル)		カードのモデル ID。
Version (バージョン)		カードのバージョン。

プロセッサ

表 4-4 に、ドメインの全プロセッサのプロパティの概要を示します。

表 4-4 ドメイン管理: 「プロセッサ」 テーブル

プロパティ	アラーム規則 (ある場合)	説明
Proc ID (プロセッサ ID)		FRU ID (スロット ID) を含むプロセッサの ID。
Core Status (コアステータス)	oplCPUstatus	プロセッサの現在のステータス。可能な値: ONLINE、OFFLINE、POWEROFF、 UNKNOWN。
Processor Number (プロセッサ番号)		プロセッサの番号。
Module Revision (モジュールリビジョン)		プロセッサモジュールのリビジョン ID。
Manufacturer (製造元)		プロセッサの製造元 ID。
SPARC Version (SPARC バージョン)		SPARC のバージョン ID。
Clock Frequency (MHz) (クロック周波数 (MHz))		メガヘルツ (MHz) 単位で表されたプロセッサのクロック周波数。
L1 Icache Size (L1 Icache サイズ)		K バイト (KB) 単位で表された L1 命令キャッシュのサイズ。
L1 Dcache Size (L1 Dcache サイズ)		K バイト (KB) 単位で表された L1 データキャッシュのサイズ。
L2 Cache Size (L2 キャッシュサイズ)		K バイト (KB) 単位で表された L2 外部キャッシュのサイズ。

メモリーコントローラ

表 4-5 に、ドメインの全メモリーコントローラのプロパティの概要を示します。

表 4-5 ドメイン管理: 「メモリーコントローラ」 テーブル

プロパティ	アラーム規則 (ある場合)	説明
Memory Controller (メモリーコントローラ)		ID (スロット ID) を含むメモリーコントローラの ID。
CS0 Status (CS0 ステータス)	oplStateCheck	CS0 の POST ステータスを示します。可能な値: UNKNOWN、OKAY、DISABLED、UNDEFINED、MISCONFIGURED、FAIL-OBP、FAIL、BLACKLISTED、REDLISTED。
CS0 Available Memory (CS0 使用可能メモリー)		CS0 の使用可能なメモリー (整数)。
CS0 DIMM Capacity (CS0 DIMM 容量)		CS0 の DIMM の容量 (整数)。
CS0 DIMM Count (CS0 DIMM カウント)		CS0 の DIMM の数 (整数)。
CS1 Status (CS1 ステータス)	oplStateCheck	CS1 の POST ステータスを示します。可能な値: KNOWN、OKAY、DISABLED、UNDEFINED、MISCONFIGURED、FAIL-OBP、FAIL、BLACKLISTED、REDLISTED。
CS1 Available Memory (CS1 使用可能メモリー)		CS1 の使用可能なメモリー (整数)。
CS1 DIMM Capacity (CS1 DIMM 容量)		CS1 の DIMM の容量 (整数)。
CS1 DIMM Count (CS1 DIMM カウント)		CS1 の DIMM の数 (整数)。

ディスク装置

表 4-6 に、ドメインの全ディスク装置のプロパティの概要を示します。

表 4-6 ドメイン管理: 「ディスク装置」 テーブル

プロパティ	アラーム規則 (ある場合)	説明
Disk ID (ディスク ID)		disk (cxtydz) の形式で表されたディスクデバイスの ID。x は PCI コントローラの数 (0 または 1)、y はターゲットの数、z は論理ユニット番号です。例: c0t4d0。ディスクがデュアルポートの場合は、2 つのディスク装置 ID がコマンドで区切られて表示されます。
Card ID (カード ID)		カードの ID。
Path (パス)		ディスク装置の物理パス。例: /pci@1f,0/pci@1,1/scsi@2/sd@0, 0, ...1, 0、または 6, 0。
Block Size (ブ ロックサイズ)		ディスクがパーティション分割されたときに設定されたブロックサイズ。
Block Count (ブロックカ ウント)		ファイルシステムに割り当てられているブロックの数。
Blocks Available (使用可能ブロッ ク数)		ファイルシステムで使用可能な未使用ブロックの数。
File Count (ファイル数)		ファイルシステムに存在するファイルの数。
Files Available (使用可能ファイ ル数)		ファイルシステムで使用可能な未使用ファイルの数。
状態		ディスクのステータス。可能な値: OK、または発生した問題を示すメッセージ (FAIL など)。
Hardware Errors (ハードウェアエ ラー数)	oplDskErrCnt	ハードウェア関連のエラーの数。
Software Errors (ソフトウェアエ ラー数)	oplDskErrCnt	ソフトウェア関連のエラーの数。
Transport Errors (トランスポー トエラー数)	oplDskErrCnt	トランスポート関連のエラーの数。

テープデバイス

表 4-7 に、ドメインの全テープデバイスのプロパティの概要を示します。

表 4-7 ドメイン管理: 「テープデバイス」 テーブル

プロパティ	アラーム規則 (ある場合)	説明
Tape ID (テープ ID)		テープデバイスの標準命名規則に従って付けられたテープデバイスの ID。例: <code>tape (0)</code> 。
Card ID (カード ID)		カードの ID。
Path (パス)		テープデバイスの物理パス。例: <code>/devices/pci@1f,0/pci@1,1/scsi@2/st@4,0</code> 。
Device Name (デバイス名)		テープデバイスの ID。例: <code>HP DDS-3 4MM DAT</code> 。
状態		テープデバイスのステータス。可能な値: <code>OK</code> 、または発生した問題を示すメッセージ。
Tape Errors (テープエラー数)	<code>oplTpeErrCnt</code>	<code>syslog</code> ファイルに記録されたテープエラーの数 (整数)。

ネットワークインタフェース

表 4-8 に、ドメインの全ネットワークインタフェースのプロパティの概要を示します。

表 4-8 ドメイン管理: 「ネットワークインタフェース」 テーブル

プロパティ	アラーム規則 (ある場合)	説明
Network ID (ネットワーク ID)		ネットワークインタフェースの ID。 例: <code>network (hme0)</code> 、 <code>network (scman1)</code> 、 <code>network (scman1:1)</code> 。
Symbolic Name (記号名)		ネットワークインタフェースに関連付けられているホストコンピュータのホスト名。
Ethernet Address (Ethernet アドレス)		ネットワークインタフェースの Ethernet アドレス。

表 4-8 ドメイン管理: 「ネットワークインタフェース」テーブル (続き)

プロパティ	アラーム規則 (ある場合)	説明
IP Address (IP アドレス)		ネットワークインタフェースの IP アドレス。
状態		ネットワークインタフェースのステータス。可能な値: OK または空白。
Network Error (ネットワークエラー)		ネットワークエラーメッセージ。システムがネットワークインタフェースのプロパティの情報を取得できない場合、またはシステムがエラーコードを取得した場合は、ネットワークエラーメッセージが表示されます。

第5章

ドメイン動的再構成

この章では、Sun Management Center コンソールおよびドメイン動的再構成モジュール Domain DR SPARC Enterprise Mx000 を使用して、Sun SPARC Enterprise Mx000 サーバー ドメインから動的再構成 (DR) 操作を実行する方法を説明します。動的再構成操作が適用されるのは、PCI カードおよび PCI カードスロットのみです。

ドメイン DR 操作を実行する前に

Sun Management Center GUI を使用して DR 操作を実行する前に、DR 操作をよく理解する必要があります。Sun SPARC Enterprise Mx000 サーバー の DR 操作の詳細については、次のドキュメントを参照してください。

- `cfgadm(1M)` のマニュアルページ。ドメイン DR モジュールの基盤となるコマンドについて説明します。
- Sun SPARC Enterprise M3000/M4000/M5000/M8000/M9000 サーバー動的再構成 (DR) ユーザーズガイド

DR モジュールについて

Domain DR SPARC Enterprise Mx000 モジュールを使用すると、「IO カード/デバイス」テーブルにリストされた接続点により、ドメイン上で動的再構成操作を実行できます。Sun Management Center コンソールだけを使用して、`cfgadm(1M)` コマンドと同様の方法で操作を実行できます。

初めて使用する場合は、このモジュールをインストールしてロードする必要があります。必要に応じて、モジュールをアンロードできます。Sun Management Center モジュールのロードおよびアンロードの詳細については、『Sun Management Center ユーザーズガイド』を参照してください。

注 - ドメイン DR モジュールをアンインストールして再インストールする場合は、最初に現在ロードされているモジュールをアンロードする必要があります。「詳細」ウィンドウの「モジュールマネージャー」タブでモジュールをロードおよびアンロードする方法については、『Sun Management Center ユーザーズガイド』を参照してください。

モジュールのアイコン (Domain DR SPARC Enterprise Mx000) は、「モジュールブラウザ」タブおよびハードウェアアイコンの下のドメインで、ホストの「詳細」ウィンドウに表示されます。

ドメイン DR 操作について

DR 操作では、ほかのドメイン操作と同様の方法でポップアップメニューが表示されます。管理対象オブジェクトの該当するテーブルを右クリックします。オブジェクトの現在の状態によって、メニューに表示されるオプションが決まります。たとえば、PCI カードスロットがすでに PCI バスに接続されている場合は、「切断」オプションがメニューに表示されます。PCI カードスロットが PCI バスに接続されていない場合は、「接続」オプションがメニューに表示されます。

ドメイン DR 操作の実行

この節では、ドメイン DR 操作の例を説明します。

- [92 ページの「PCI カードスロットを PCI バスに接続するには」](#)
- [93 ページの「IO/デバイス DR コマンドのステータスを表示するには」](#)

▼ PCI カードスロットを PCI バスに接続するには

1. PCI カードスロットの「IO カード/デバイス」テーブルを右クリックして、「接続」を選択します。
「接続」ダイアログが表示されます。
2. 「OK」をクリックして、PCI カードスロットを接続します。

▼ IO/デバイス DR コマンドのステータスを表示するには

1. PCI カードスロットの「IO カード/デバイス」テーブルを右クリックして、「ステータスを表示」を選択します。
「状態」ダイアログが表示されます。
2. 「OK」をクリックして、「状態」ダイアログを閉じます。

「IO カード/デバイス」テーブルのメニューオプション

表 5-1 に、「IO カード/デバイス」テーブルの DR メニューオプションのリストを示します。

表 5-1 「IO カード/デバイス」テーブルメニューの DR オプション

メニューエントリ	説明
接続	PCI カードスロットを接続します。
切断	PCI カードスロットを切り離します。
設定	PCI カードを設定します。
設定解除	PCI カードの設定を解除します。
ステータスを表示	最新の IO カード/デバイス DR コマンドのステータスを表示します。

ドメイン動的再構成の属性

「詳細」ウィンドウの右半分の動的再構成データテーブルを使用して、動的再構成可能な PCI カードの最新の既知の状態を検索します。

接続点: I/O カードとデバイス

接続点は、コンポーネントおよびそのスロット全般を指す用語です。表 5-2 に、PCI カードスロットの情報を示します。

表 5-2 IO カード/デバイスの接続点の属性

属性	説明
一意の Ap_Id	cfgadm からの一意的論理接続点 ID: iou#x-pci#y。ここで、x は IOU の数、y は PCI 番号です。
スロット状態	スロットの利用状態。可能な値: assigned、unassigned。
電源状態	電源の状態。可能な値: powered-on または powered-off。
ソケット	ソケットの状態。可能な値: connected、disconnected、empty。
占有装置	占有装置の状態。ボードおよび接続されたデバイスの組み合わせです。可能な値: configured、unconfigured。
種類	種類。例: pci-pci/hp。
状態	コンポーネントの状態。可能な値: ok、unknown、failed、unusable。
情報	io の種類の全般的な情報。例: device/pci@23d,700000 referenced。フィールドの説明については、『Solaris リファレンスマニュアルコレクション』の cfgadm_sbd(1M) のマニュアルページを参照してください。

表 5-2 IO カード/デバイスの接続点の属性 (続き)

属性	説明
日時	コンポーネントがドメインに設定された日時。
ビジー状態	Y (yes) は、状態、利用可能、または状況の変更処理が実行中であることを示します。n (no) は、状態、利用可能、または状況の変更処理が実行中ではないことを示します。
Phys_Id	物理接続点 ID: /devices/pci@y,600000:iou#x-pci#y。ここで、x は IOU の数、y は PCI 番号です。

第6章

アラーム規則

アラームは異常なイベントの通知です。Sun Management Center ソフトウェアでは、さまざまな重要度のアラームを使用してシステムを監視できます。

この章では、Sun SPARC Enterprise Mx000 サーバー固有のアラーム規則の概要を説明します。この章は次の節で構成されています。

- 98 ページの「アラーム規則について」
- 98 ページの「プラットフォーム管理モジュールのアラーム規則」
 - 99 ページの「エラーステータスの規則 (rErrorStatus)」
 - 100 ページの「LED 状態の規則 (rLEDState)」
 - 101 ページの「テスト状態の規則 (rTestState)」
 - 101 ページの「ドメインステータスの規則 (rDomainStatus)」
 - 102 ページの「有効ステータスの規則 (rValidStatus)」
 - 103 ページの「外部 I/O 拡張ユニット LED 状態の規則 (rIoBoxLEDState)」
 - 104 ページの「リンクカード LED 状態の規則 (rLinkCardLEDState)」
 - 105 ページの「取り外し可能 LED の規則 (rOKtoRemoveLED)」
 - 106 ページの「外部 I/O 拡張ユニットセンサーの規則 (rIoBoxSensor)」
- 107 ページの「ドメイン管理モジュールのアラーム規則」
 - 107 ページの「CPU ステータスの規則 (oplCPUStatus)」
 - 108 ページの「状態チェックの規則 (oplStateCheck)」
 - 109 ページの「ディスクエラーカウンターの規則 (oplDskErrCnt)」
 - 109 ページの「テープエラーカウンターの規則 (oplTpeErrCnt)」

アラームの詳細については、『Sun Management Center ユーザーズガイド』を参照してください。

アラーム規則について

アドオンソフトウェアには、さまざまなコンポーネントの状態に応答するために使用されるアラーム規則が多数含まれています。各アラーム規則インスタンスは、プラットフォーム管理モジュールのテーブルの特定の属性に適用されます。単一の規則を複数の属性およびテーブルに適用することができます。

アラーム規則は、主に次の2つのソースから入力を受け付けます。

- プラットフォーム管理モジュール内のオブジェクトの属性
- 規則自体に格納されたデータ

Sun Management Center コンソールを使用して、規則の状態および状態遷移に対してアクションを割り当てることができます。詳細については、『Sun Management Center ソフトウェアユーザーズガイド』を参照してください。

プラットフォーム管理モジュールのアラーム規則

この節では、プラットフォーム管理モジュールで監視される属性のアラーム規則を一覧表示します。

各節の最初の表には、次のものを一覧表示します。

- 規則が適用されるテーブル
- 規則で参照される各テーブルの属性

アラーム規則は、[第3章](#)のプラットフォーム管理モジュールの属性を説明した表にも一覧表示されています。

各節の2つ目の表には、監視対象の属性の値が一覧表示されます。

- 関連付けられたアラームレベル
- 関連付けられたアラームの色
- 推奨されるアクション

エラーステータスの規則 (rErrorStatus)

エラーステータスの規則で管理されるアラームは、システムまたはシステムコンポーネントのステータスの変化を警告します。

表 6-1 エラーステータスの規則のテーブルおよび属性

該当するテーブル	参照される属性
System (システム)	System State (システム状態)、Firmware State (ファームウェア状態)、Hardware State (ハードウェア状態)
CMU Board (CMU ボード)	Error Status (エラーステータス)
CPU Module (CPU モジュール)	Error Status (エラーステータス)
Memory Board (メモリーボード)	Error Status (エラーステータス)
Memory DIMM (メモリー DIMM)	Error Status (エラーステータス)
IOU Board (IOU ボード)	Error Status (エラーステータス)
PCI Slot (PCI スロット)	Error Status (エラーステータス)
System Board (システムボード)	CMU Error Status (CMU エラーステータス)、IOU Error Status (IOU エラーステータス)
XSB (XSB)	Error Status (エラーステータス)
System Components (システムコンポーネント)	Error Status (エラーステータス)
Environmental Monitors (環境監視)	Value Status (値のステータス)
Domain (ドメイン)	Error Status (エラーステータス)

表 6-2 エラーステータスの規則の属性値

属性値	アラームレベル (ある場合)	意味/色
NORMAL (正常)	アラームなし	OK
WARNING (警告)	警告	黄
ALARM (アラーム)	エラー	赤

表 6-2 エラーステータスの規則の属性値 (続き)

属性値	アラームレベル (ある場合)	意味/色
CHANGE (変更)	アラームなし	OK
NOTICE (通知)	情報	青
UNKNOWN (不明)	情報	青

LED 状態の規則 (`rLEDState`)

LED 状態の規則で管理されるアラームは、システムに保守が必要な場合を警告します。

表 6-3 LED 状態の規則のテーブルおよび属性

該当するテーブル	参照される属性
System (システム)	Check LED (チェック LED)

表 6-4 LED 状態の規則の属性値

属性値	アラームレベル (ある場合)	意味/色
ON (オン)	エラー	赤
OFF (オフ)	アラームなし	OK
BLINKING (点滅)	情報	青
UNKNOWN (不明)	情報	青

テスト状態の規則 (rTestState)

テスト状態の規則で管理されるアラームは、テストしている拡張システムボード (XSB) の現在の状態が PASSED でも UNMOUNTED でもない場合を警告します。

表 6-5 テスト状態の規則のテーブルおよび属性

該当するテーブル	参照される属性
XSB (XSB)	Test (テスト)

表 6-6 テスト状態の規則の属性値

属性値	アラームレベル (ある場合)	意味/色
PASSED (合格)	アラームなし	OK
FAILED (失敗)	エラー	赤
UNKNOWN (不明)	情報	青
UNMOUNTED (マウント解除)	アラームなし	OK
TESTING (テスト中)	情報	青

ドメインステータスの規則 (rDomainStatus)

ドメインステータスの規則で管理されるアラームは、ドメインのステータスが PANIC または UNKNOWN の場合を警告します。

表 6-7 ドメインステータスの規則のテーブルおよび属性

該当するテーブル	参照される属性
Domain (ドメイン)	状態

表 6-8 ドメインステータスの規則の属性値

属性値	アラームレベル (ある場合)	意味/色
POWER OFF (電源切断)	アラームなし	OK
PANIC (パニック)	エラー	赤
SHUTDOWN (シャットダウン)	アラームなし	OK
INITIALIZE (初期化)	アラームなし	OK
BOOT (ブート)	アラームなし	OK
RUNNING (実行中)	アラームなし	OK
PROM (PROM)	アラームなし	OK
CHANGE (変更)	アラームなし	OK
UNKNOWN (不明)	警告	黄

有効ステータスの規則 (rValidStatus)

有効ステータスの規則で管理されるアラームは、環境のプロープのステータスが VALID でない場合を警告します。

表 6-9 有効ステータスの規則のテーブルおよび属性

該当するテーブル	参照される属性
Environmental Monitors (環境監視)	状態

表 6-10 有効ステータスの規則の属性値

属性値	アラームレベル (ある場合)	意味/色
INVALID (無効)	警告	黄
VALID (有効)	アラームなし	OK
UNKNOWN (不明)	情報	青

外部 I/O 拡張ユニット LED 状態の規則 (rIoBoxLEDState)

外部 I/O 拡張ユニット LED 状態の規則で管理されるアラームは、外部 I/O に関して、注意を必要とする問題が発生したか、保守が必要になった可能性があることを LED が示した場合を警告します。

表 6-11 外部 I/O 拡張ユニット LED 状態の規則のテーブルおよび属性

該当するテーブル	参照される属性
IO Box Chassis (IO ボックスシャーシ)	Over Temperature LED (温度超過 LED)、Service Required LED (保守要求 LED)
IO Boat (IO ポート)	Service Required LED (保守要求 LED)
IO Box Power Supply and Fan (IO ボックス電 源装置およびファン)	Service Required LED (保守要求 LED)

表 6-12 外部 I/O 拡張ユニット LED 状態の規則の属性値

属性値	アラームレベル (ある場合)	意味/色
OFF (オフ)	アラームなし	OK
STANDBY BLINK (スタン バイ点滅)	アラームなし	OK
BLINK SLOW (ゆっくり点滅)	警告	黄

表 6-12 外部 I/O 拡張ユニット LED 状態の規則の属性値 (続き)

属性値	アラームレベル (ある場合)	意味/色
BLINK FAST (速い点滅)	アラームなし	OK
FEEDBACK FLASH (フィード バック点滅)	アラームなし	OK
ON (オン)	エラー	赤
UNKNOWN (不明)	警告	黄

リンクカード LED 状態の規則 (rLinkCardLEDState)

リンクカード LED 状態の規則で管理されるアラームは、外部 I/O に関して、注意を必要とする問題が発生したか、保守が必要になった可能性があることを LED が示した場合を警告します。

表 6-13 リンクカード LED 状態の規則のテーブルおよび属性

該当するテーブル	参照される属性
Link Card (リンクカード)	Data LED (データ LED)、Management LED (管理 LED)

表 6-14 リンクカード LED 状態の規則の属性値

属性値	アラームレベル (ある場合)	意味/色
OFF (オフ)	エラー	赤
STANDBY BLINK (スタンバイ点滅)	アラームなし	OK
BLINK SLOW (ゆっくり点滅)	警告	黄
BLINK FAST (速い点滅)	アラームなし	OK
FEEDBACK FLASH (フィードバック 点滅)	アラームなし	OK
ON (オン)	アラームなし	OK
UNKNOWN (不明)	警告	黄

取り外し可能 LED の規則 (rOKtoRemoveLED)

取り外し可能 LED の規則で管理されるアラームは、取り外し可能 LED 属性が ON または UNKNOWN の場合を警告します。

表 6-15 取り外し可能 LED の規則のテーブルおよび属性

該当するテーブル	参照される属性
IO ポート	取り外し可能 LED

表 6-16 取り外し可能 LED の規則の属性値

属性値	アラームレベル (ある場合)	意味/色
OFF (オフ)	アラームなし	OK
STANDBY	アラームなし	OK
BLINK (スタンバイ点滅)		
BLINK SLOW (ゆっくり点滅)	アラームなし	OK
BLINK FAST (速い点滅)	アラームなし	OK
FEEDBACK	アラームなし	OK
FLASH (フィードバック点滅)		
ON (オン)	情報	青
UNKNOWN (不明)	警告	黄

外部 I/O 拡張ユニットセンサーの規則 (rIoBoxSensor)

外部 I/O 拡張ユニットセンサーの規則で管理されるアラームは、環境の値がしきい値と等しくなった場合、最大しきい値を超えた場合、または最小しきい値を下回った場合を警告します。

表 6-17 外部 I/O 拡張ユニットセンサーの規則のテーブルおよび属性

該当するテーブル	参照される属性
IO Box Sensor (IO ボックスセンサー)	Value (値)

表 6-18 外部 I/O 拡張ユニットセンサーの規則の属性値

センサーの値	アラームレベル (ある場合)	意味/色
> minimum threshold value (最小しきい値を超える)	アラームなし	OK
< maximum threshold value (最大しきい値未満)	アラームなし	OK
= minimum threshold value (最小しきい値と等しい)	警告	黄
= maximum threshold value (最大しきい値と等しい)	警告	黄
< minimum threshold value (最小しきい値未満)	エラー	赤
> maximum threshold value (最大しきい値を超える)	エラー	赤

ドメイン管理モジュールのアラーム規則

この節では、ドメイン管理モジュールで監視される属性のアラーム規則を一覧表示します。

各節の最初の表には、次のものを一覧表示します。

- 規則が適用されるテーブル
- 規則で参照される各テーブルの属性

アラーム規則は、第4章のドメイン管理モジュールの属性を説明した表にも一覧表示されています。

各節の2つ目の表には、監視対象の属性の値が一覧表示されます。

- 関連付けられたアラームレベル
- 関連付けられたアラームの色
- 推奨されるアクション

CPU ステータスの規則 (op1CPUStatus)

CPU ステータスの規則で管理されるアラームは、CPU のステータスの変化を警告します。プロセッサが OFFLINE の場合、注意アラームが生成されます。

表 6-19 CPU ステータスの規則のテーブルおよび属性

該当するテーブル	参照される属性
Processor (プロセッサ)	Core Status (コアステータス)

表 6-20 CPU ステータスの規則の属性値

属性値	アラームレベル (ある場合)	意味/色
ONLINE (オンライン)	アラームなし	OK
OFFLINE (オフライン)	注意	青
POWEROFF (電源切断)	アラームなし	OK
UNKNOWN (不明)	アラームなし	OK

状態チェックの規則 (oplStateCheck)

状態チェックの規則で管理されるアラームは、メモリーコントローラ of CS ステータスの変化を警告します。ステータスが OK ではない場合、注意アラームが生成されます。

表 6-21 状態チェックの規則のテーブルおよび属性

該当するテーブル	参照される属性
Memory Controller (メモリーコントローラ)	CS0 Status (CS0 ステータス)、CS1 Status (CS1 ステータス)

表 6-22 状態チェックの規則の属性値

属性値	アラームレベル (ある場合)	意味/色
UNKNOWN (不明)	注意	青
OKAY	アラームなし	OK
DISABLED (無効)	注意	青
UNDEFINED (未定義)	注意	青
MISCONFIGURED (設定ミス)	注意	青
FAIL-OBP (失敗 OBP)	注意	青
FAIL (失敗)	注意	青
BLACKLISTED (ブラックリスト)	注意	青
REDLISTED (レッドリスト)	注意	青
--	注意	青

ディスクエラーカウンルの規則 (oplDskErrCnt)

ディスクエラーカウンルの規則で管理されるアラームは、エラーカウンルのしきい値を超過した場合を警告します。

表 6-23 ディスクエラーカウンルの規則のテーブルおよび属性

該当するテーブル	参照される属性
Disk Device (ディスク装置)	Hardware Errors (ハードウェアエラー数)、Software Errors (ソフトウェアエラー数)、Transport Errors (トランスポートエラー数)

表 6-24 ディスクエラーカウンルの規則の属性値

エラーカウンルのしきい値	アラームレベル (ある場合)	意味/色
5	情報	青
10	警告	黄
15	エラー	赤

テープエラーカウンルの規則 (oplTpeErrCnt)

テープエラーカウンルの規則で管理されるアラームは、エラーカウンルのしきい値を超過した場合を警告します。

表 6-25 テープエラーカウンルの規則のテーブルおよび属性

該当するテーブル	参照される属性
Tape Device (テープデバイス)	Tape Errors (テープエラー数)

表 6-26 テープエラーカウンルの規則の属性値

エラーカウンルのしきい値	アラームレベル (ある場合)	意味/色
10	情報	青
20	警告	黄
30	エラー	赤

付録 A

マニュアルページ: setsunmc および showsunmc

この付録には、setsunmc(8) コマンドと showsunmc(8) コマンドのマニュアルページが含まれています。これらのマニュアルページは、サービスプロセッサにもインストールされます。これらマニュアルページとその他の XSCF のマニュアルページにアクセスするには、SPARC Enterprise Mx000 サーバースerviceプロセッサの XSCF プロンプトで man(1) コマンドを使用します。

setsunmc

名前

setsunmc - Sun Management Center エージェントの起動または停止とその設定変更

形式

```
setsunmc [enable|disable]
```

```
setsunmc -A
```

```
setsunmc [-s server] [-z seed] [-p agent_port] [-c community_string]  
[-t trap_port] [-e event_port] [-a SNMP_agent_port] [-a dmn_agent_port]
```

```
setsunmc [-h]
```

説明

1 つ以上のオプションを指定して実行すると、「オプション」で説明するように Sun Management Center エージェントの設定が変更されます。

オペランド `enable` を指定して実行すると、Sun Management Center エージェントが使用可能になります。この処理では、Sun Management Center エージェントが起動され、以降の再起動時にエージェントを起動するよう起動デーモンに通知されます。オペランド `disable` を指定して実行すると、エージェントが停止され、以降の再起動時にエージェントの起動を無効にするよう起動デーモンに通知されます。

オペランドをオプションとともに使用することはできません。

特権

このコマンドを実行するには、`platadm` または `fieldeng` 特権を持っている必要があります。

詳細は `setprivileges(8)` を参照してください。

オプション

次のオプションがサポートされています。オプションをオペランドとともに使用することはできません。

<code>-a snmp_agent_port</code>	SNMP エージェントの待機ポートを指定します。デフォルト値は 161 です。この値は、SNMP エージェント上でポートを変更する場合にだけ変更します。
<code>-c community_string</code>	SNMPv1 トラップホスト SNMP 設定で使用するコミュニティ文字列を指定します。デフォルト値は <code>public</code> です。
<code>-d dmn_agent_port</code>	ドメインで実行している Sun Management Center エージェントのポートを指定します。デフォルト値は 1161 です。このドメインエージェントポートは複合オブジェクトを作成する際に使用されます。複合オブジェクトドメインが正しく作成されるように、Sun Management Center ドメインエージェントは通常、同じポートを使用します。
<code>-e event_port</code>	Sun Management Center サーバー上のイベント送信先のポートを指定します。デフォルト値は 163 です。
<code>-h</code>	使用法を表示します。 他のオプションまたはオペランドとともに使用するとエラーになります。
<code>-p agent_port</code>	Sun Management Center エージェントが待機するポート番号を指定します。デフォルト値は 1161 です。

<code>-s server</code>	エージェントが通信する Sun Management Center サーバーを指定します。サーバーはホスト名または IP アドレスで指定できます。エージェントを有効にする前に設定します。
<code>-t trap_port</code>	Sun Management Center サーバー上のトラップ送信先のポートを指定します。デフォルト値は 162 です。
<code>-z seed</code>	Sun Management Center サーバーとエージェントの間で通信するためのセキュリティーキーを生成するためのシードを指定します。この値は、サーバーの設定時に使用したシードと同じにします。エージェントを有効にする前に設定します。

オペラント

次のオペラントがサポートされています。オペラントをオプションとともに使用することはできません。

<code>enable</code>	オペラント <code>enable</code> を指定して実行すると、Sun Management Center エージェントが使用可能になります。これにより、Sun Management Center エージェントが起動され、以降の再起動時にエージェントを起動するよう起動デーモンに通知されます。
<code>disable</code>	オペラント <code>disable</code> を指定して実行すると、エージェントが停止され、以降の再起動時にエージェントの起動を無効にするよう起動デーモンに通知されます。

例

コード例 A-1 引数を指定した基本的な設定コマンド

```
XSCF> setsunmc -s balon -z maplesyr -c double_secret
```

コード例 A-2 エージェントの起動

```
XSCF> setsunmc enable
```

終了状態

終了値はありません。

関連項目

`showsunmc` (8)

showsunmc

名前

showsunmc - Sun Management Center エージェントの設定情報とステータスの表示

形式

```
showsunmc [isenabled]
```

```
showsunmc [-h]
```

説明

このコマンドは、Sun Management Center エージェントの設定情報と現在のステータスを表示するために使用します。isenabled オプションを指定すると、エージェントのステータス（エージェントが有効な場合は 1、無効な場合は 0）が表示されます。

オプション

次のオプションがサポートされています。

isenabled	エージェントのステータスだけが表示されます。値 1 はエージェントが有効であることを示し、0 はエージェントが無効であることを示します。
-h	使用方法を表示します。 他のオプションまたはオペランドとともに使用するとエラーになります。

特権

このコマンドを実行するには、platadm、platop、fieldeng のいずれかの特権を持っている必要があります。

詳細は setprivileges (8) を参照してください。

オペランド

このコマンドにはオペランドがありません。

例

コード例 A-3 エージェントのステータスの表示: 未設定、有効

```
XSCF> setsunmc
Agent Status:Disabled
Setup Status:Not set up
SunMC Server:unknown
Security Seed:maplesyr
SNMPv1 Community String:public
Agent Port:                1161
Host Trap Port:            162
Host Event Port:          163
SNMP Agent Port:          161
Domain Agent Ports:       1161
```

コード例 A-4 エージェントのステータスの表示: 設定、無効

```
XSCF> setsunmc
Agent Status:Disabled
Setup Status:Set up
SunMC Server:balon
Security Seed:maplesyr
SNMPv1 Community String:double_secret
Agent Port:                1161
Host Trap Port:            162
Host Event Port:          163
SNMP Agent Port:          161
Domain Agent Ports:       1161
```

コード例 A-5 有効なエージェントのエージェントステータスの表示

```
XSCF> setsunmc isenabled
1
```

終了状態

次の終了値が返されます。

0	正常終了
1	エラーが発生しました

関連項目

setsunmc (8)

索引

A

addboard(8), 64
addfru(8), 56, 61, 63
adduser(8), 21
ANYGROUP (管理グループ名), 36

C

cfgadm(1M), 48, 50, 51, 91, 94
cfgadm_sbd(1M), 94
CLI. 「コマンド行インタフェース」を参照。
CPU

 CPU ステータスのアラーム規則, 107
 CPU ストランド, 68
 CPU チップ, 54, 57, 68

D

deleteboard(8), 50, 51, 65
deletefru(8), 56, 61, 63

E

esadm (管理グループ名), 36
esdomadm (管理グループ名), 36
es-guiinst, 16
es-guisetup, 18
es-guistart, 11
es-guistop, 11
es-inst, 8
esops (管理グループ名), 36
es-setup, 8, 25, 27

es-start, 12, 22 ~ 23
es-stop, 12, 24, 26
es-uninst, 29 ~ 30
esusers ファイル, 36

F

fieldeng (XSCF 特権), 21, 50, 56, 61, 63

G

groupadd, 20

I

I/O ポート, 71 ~ 73
 電源切断, 48 ~ 49
ioxadm(8), 70, 71, 73, 74
IP アドレス
 setsunmc コマンドでの指定, 113
 とサービスプロセッサのフェイルオーバー, 10
 ネットワークインタフェース, 90
 以下の変更の再構成, 26

L

LED 状態のアラーム規則, 100
rIoBoxLEDState (アラーム規則), 103 ~ 104
アラーム規則
 プラットフォーム管理
 rIoBoxLEDState, 103 ~ 104
外部 I/O 拡張ユニット
 LED 状態のアラーム規則, 103

- M**
 man(1), 111
 moveboard(8), 65
- O**
 oplCPUStatus (アラーム規則), 107
 oplDskErrCnt (アラーム規則), 109
 oplTpeErrCnt (アラーム規則), 109
- P**
 password(8), 21
 platadm (XSCF 特権), 21
 platadmn (管理グループ名), 20
 platop (管理グループ名), 20
 poweroff(8), 69, 75
 poweron(8), 69, 75
- R**
 rDomainStatus (アラーム規則), 101 ~ 102
 replacefru(8), 56, 61, 63
 rErrorStatus (アラーム規則), 99 ~ 100
 reset(8), 69, 75
 rLEDState (アラーム規則), 100
 rLinkCardLEDState (アラーム規則), 104
 rTestState (アラーム規則), 101
- S**
 Service Processor, 2, 3
 SNMP エージェント, 22
 エージェントソフトウェア, 17, 19, 22
 コンソール, 2
 プリインストールされているソフトウェア, 9
 setdcl(8), 69
 setnetwork(8), 10
 setprivileges(8), 21, 50
 setroute(8), 10
 setsnmp(8), 22
 setsunmc(8), 16, 19, 22, 25, 26, 27, 28
 マニュアルページ, 111
 setupfru(8), 63
 setup-responses-file, 17
- Simple Network Management Protocol. 「SNMP」を参照。
- SNMP
 エージェント, 22
 ドメイン上での設定用コミュニティー文字列, 17
 検出マネージャーのコミュニティー文字列, 10
- SUNW. 「パッケージ名」を参照。
- T**
 testsb(8), 63
- U**
 useradm (XSCF 特権), 21
- X**
 XSCF コマンド
 addboard(8), 64
 addfru(8), 56, 61, 63
 adduser(8), 21
 deleteboard(8), 50, 51, 65
 deletefru(8), 56, 61, 63
 ioxadm(8), 70, 71, 73, 74
 man(1), 111
 moveboard(8), 65
 password(8), 21
 poweroff(8), 69, 75
 poweron(8), 69, 75
 replacefru(8), 56, 61, 63
 reset(8), 69, 75
 setdcl(8), 69
 setnetwork(8), 10
 setprivileges(8), 21, 50
 setroute(8), 10
 setsnmp(8), 22
 setsunmc(8), 16, 19, 22, 25, 26, 27, 28
 マニュアルページ, 111
 setupfru(8), 63
 testsb(8), 63
- XSCF 特権
 fieldeng, 21, 50, 56, 61, 63
 platadm, 21
 useradm, 21
- あ**
 アドミニストレータ、ドメインとプラットフォーム, 2

アラーム規則

- ドメイン管理, 107 ~ 109
 - oplCPUStatus, 107
 - oplDskErrCnt, 109
 - oplTpeErrCnt, 109
- プラットフォーム管理, 98 ~ 106
 - rDomainStatus, 101 ~ 102
 - rErrorStatus, 99 ~ 100
 - rLEDState, 100
 - rLinkCardLEDState, 104
 - rTestState, 101

い

動的再構成 (DR)

- インストール, 14

インストール

- コアソフトウェア, 12, 13
- スクリプト, 9

え

エージェント, 15

- SNMP, 22
- コアエージェントレイヤー, 14
- サーバー, 2
- ドメイン, 23
- プラットフォーム, 2 ~ 3
- モジュール, 6
- 旧バージョン, 9
- 再起動, 23
- 停止, 24 ~ 25

エージェントの更新, 15

エラーステータスのアラーム規則, 99 ~ 100

か

外部 I/O 拡張ユニット, 69, 74

- LED 状態のアラーム規則, 104
- センサーのアラーム規則, 106

く

グループ名

- ANYGROUP, 36
- esadm, 36
- esdomadm, 36
- esops, 36
- platadm, 20
- platop, 20

け

検出マネージャー, 10

こ

コマンド行インタフェース (CLI), 11, 22 ~ 24, 29

- es-inst, 8
- es-setup, 8, 25, 27
- es-start, 12, 22 ~ 23
- es-stop, 12, 24, 26
- es-uninst, 29 ~ 30

コミュニティ文字列

- ドメイン上での設定の変更, 17
- 検出マネージャーのデフォルト値の変更, 10

コンソール

- Service Processor, 2
- コンソールレイヤーソフトウェア, 14, 15
- 終了, 25

さ

サーバー

- エージェント, 2
- 停止, 24 ~ 25
- サーバーレイヤーソフトウェア, 14, 15

サービスプロセッサ

- フェイルオーバーについて, 10

サポート対象のハードウェアプラットフォーム, 1

し

「詳細」ウィンドウ

- ドメイン, 4

oplStateCheck (アラーム規則), 108

アラーム規則

- ドメイン管理
 - oplStateCheck, 108

状態チェックのアラーム規則, 108

せ

セットアップパラメータの再構成, 25

rIoBoxSensor (アラーム規則), 106

アラーム規則

- プラットフォーム管理
 - rIoBoxSensor, 106

外部 I/O 拡張ユニット

- センサーのアラーム規則, 106

そ

ソフトウェア

- Service Processor にプリインストールされている, 9
- コアソフトウェア
インストール, 12, 13
- セットアップ
スクリプト, 9

て

- ディスクエラーカウントのアラーム規則, 109
- テープエラーカウントのアラーム規則, 109
- テスト状態のアラーム規則, 101

と

動的再構成 (DR), 91, 95

ドメイン

- ドメインの「詳細」ウィンドウ, 4
- 「詳細」ウィンドウ
ドメイン, 4

ドメイン

- アドミニストレータ, 2
- エージェントソフトウェア, 23
- ドメインステータスのアラーム規則, 101 ~ 102
- ドメインの「詳細」ウィンドウ, 4
- ドメイン管理パッケージ, 34
- ドメイン管理モジュール, 6
- ハードウェア, 5
 - 最小値/最大値, 2
- 管理ドメイン, 5
 - 検出マネージャーによる生成, 10
- 設定

- コミュニティ文字列の変更, 17

動的再構成 (DR)

- ドメイン動的再構成パッケージ, 34
- ドメイン動的再構成モジュール, 6

rOKtoRemoveLED (アラーム規則), 105

アラーム規則

- プラットフォーム管理
rOKtoRemoveLED, 105

取り外し可能 LED のアラーム規則, 105

ね

ネットワークポートの構成 について, 9

ポート

- ネットワークポートの構成について, 9

競合

- ネットワークポートの構成について, 9
- 取り外し可能 LED のアラーム規則, 105

は

ハードウェアドメイン

- 最小値/最大値, 2
- 「ハードウェア」タブ, 78
- ハイエンドサーバー, 1
- パッケージ名, 34

ひ

必要条件, 9

要件, 9

ビュー

- ドメイン管理ビュー, 3
- プラットフォーム管理ビュー, 3

ふ

フェイルオーバー、サービスプロセッサ, 10

表示

- 物理表示, 78 ~ 79

物理表示, 78, 79

- 「詳細」ウィンドウ
プラットフォーム, 4
- プラットフォーム, 5

- アドミニストレータ, 2
- エージェント, 2 ~ 3
- エージェントレイヤーソフトウェア, 14, 15
- サポート対象, 1
- ハイエンドサーバー, 1
- プラットフォームの「詳細」ウィンドウ, 4
- プラットフォーム管理パッケージ, 33
- プラットフォーム管理モジュール, 6
- ミッドレンジサーバー, 1

へ

ヘルプ

インストール, 14

ほ

ポート

構成変更後の再構成, 25

検出マネージャー

ポート設定, 10

ま

マニュアルページ

setsunmc(8), 111

み

ミッドレンジサーバー, 1

も

モジュール

ドメイン DR, 91 ~ 92

ドメイン管理, 81 ~ 82

プラットフォーム管理, 28, 38 ~ 40

リスト, 6

ゆ

rValidStatus (アラーム規則), 102 ~ 103

アラーム規則

プラットフォーム管理

rValidStatus, 102 ~ 103

有効ステータスのアラーム規則, 102 ~ 103

り

リンクカード LED 状態のアラーム規則, 104

ろ

表示

論理表示, 78 ~ 80

論理表示, 78, 80

わ

ワークステーション「コンソール」を参照。

